基　礎　分　野

授業科目 物理学	担当講師名 三仲　啓	単位数　１単位 時間数　３０時間	対象学年 １　年次

学習目標（ねらい）

1. 人間の環境における自然現象の法則性を学び、看護実践の裏付けとして活用することができる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
１～２	１．力の性質	1）力のベクトルと作用点，作用・反作用の法則 2）力の合成・分解，摩擦力
3	２．力のつり合い	1）力のモーメント(仰臥位から側臥位へ) 2）物体に働く力のつり合い，人体のてこ
４～５	３．看護への応用例	1）重心と安定性，看護ボディメカニクス 2）斜面とファウラー位
６～８	４．圧力	1）大気圧，血圧 2）浮力，サイフォン(胃洗浄) 3）点滴(流量の調節)，定圧装置(胸腔ドレナージ)
９～10	５．運動の法則	1）仕事と運動エネルギー 2）位置エネルギーとエネルギー保存則
11～12	６．熱	1）熱と温度，熱の伝わり方 2）気体の状態方程式(酸素ボンベ)
13	８．音と光	1）音と聴覚

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題レポート	看護学生のための物理学　　医学書院

備　考

- 看護技術は、物理学を応用していきます。基本を学んで各看護学での、ケア時の安全・安楽と関連させていきましょう。
- 形態機能学の基礎として、大切な学習となります。

授業科目	担当講師名	単位数　1単位	対象学年
情報科学　I	福元　伸也	時間数　15　時間	1　年次

学習目標（ねらい）

1．情報科学の基礎的な考え方及び情報リテラシーについて理解できる。

回　数	単　元	学習内容・方法
1～4	1．看護と情報科学	1）情報とは 2）情報科学の基礎 3）情報と認知 4）看護と情報処理 5）情報の管理と人権 6）情報リテラシー 情報の入手、理解、評価、活用 情報のつくり方、守り方、広め方、つながり方
5～7	2．コンピューターと情報処理	1）コンピューターとは 2）情報とデーター 3）コンピューターによる情報処理システム 4）コンピューターネットワーク
8	3．終講試験	

評価方法	テキスト・参考書等
実技試験	プリント

備　考

・看護研究や領域別看護の資料作成に活用していきます。コンピューターの基本的な操作を理解しておきましょう。

授業科目	担当講師名	単位数　1単位	対象学年
情報科学　II	福元　伸也	時間数　30　時間	1　年次

学習目標（ねらい）

1．コンピューター科学と医療分野での情報処理への応用に関する知識を学び、基本的なパソコンの操作技術を習得できる。

回　数	単　元	学習内容・方法
1～3	1．コンピューター科学と医療の応用	1）看護におけるコンピューターの利用 ・看護師とコンピューター ・コンピューターによる看護情報処理
4～8	2．看護とコンピューター	1）看護と病院情報システム ・医療情報システム ・電子カルテシステム 2）看護と地域保健医療情報システム ・保健師活動と情報処理 ・地域住民の健康作りへのコンピューターの導入 ・遠隔医療情報システム 3）看護と情報に関する倫理 ・医療情報をめぐる倫理的諸問題 ・コンピューターと法　法的義務 ・セキュリティ管理（情報の危険性・ウイルス・不正アクセス対策 4）看護と情報の将来 看護におけるマンーマシンインターフェイス
9～14	3．パソコンによる演習	1）パソコンについて（基本的構造） 2）キーボード入力 3）ワードプロセッサー 4）表計算ソフト 5）プレゼンテーションソフト 6）統計解析ソフト 7）インターネットによる情報検索
15	4．終講試験及び振り返り	1）実技試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
実技試験 課題達成度	プリント

備　考

- 医療分野における情報処理について、倫理も踏まえて考えていきましょう。
- パソコン入力についての基礎の修得ができるように、練習をしましょう。

授業科目	担当講師名	単位数　　１単位	対象学年
論理学	外薗　幸一	時間数　３０時間	１　年次

学習目標（ねらい）

１．事実を正しく解釈･表現する論理的思考を学ぶとともに、論文を書くための文章力を高めることができる。

回　数 (1回90分)	単　　元	学 習 内 容・方 法
１～15	１．論理的思考	１）論理的思考とは何か 思考の原理　考えるはたらき ２）ある題材についての意見文を書く。 ３）文章表現のツール、使い方、文章の構成法。
	２．文の七原則	１）いつ、何処で、誰が、誰に、何を、どうしたのか
	３．事実の読み方	１）題材の文章から客観的に事実を取り出す
	４．主張と理由	１）題材の文章を、多方面から客観的に分析する ２）題材の文章を、批判的に検討する。 ３）検討した文章を書き直す。
	５．論評	１）文章の検討で学んだことを反映させ、各自が自分の意見文を検討する。 ２）意見文と科学論文・レポートの基本的相違 ３）クリティカルシンキング

評価方法	テキスト・参考書等
課題文　（小論文） 課題達成度	プリント

備　考　看護を考えるうえで、状況を正確に捉え、論理的に思考できる力は重要である。そのために講義では物事を論理的に思考していくことの基礎知識とその実践を学ぶ。文章を書く際の思考のプロセスを学び、他科目の学習に発展できるようにする。

授業科目	担当講師名	単位数　　１単位	対象学年
心理学	森藤　悦子	時間数　３０時間	１　年次

学習目標（ねらい）

１．科学的な方法で分析・解釈した人間の心理や行動の原理を学ぶことによって、自己理解・他者理解を深めることができる。

回　数 (1回90分)	単　　元	学 習 内 容・方 法
１～５	１．人間の心理を理解するための基礎	１）心理学とは ２）感覚・知覚の心理 ３）記憶の心理 ４）感情・動機の心理 ５）性格・知能の心理
６～１１	２．発達の心理と心理的問題	１）乳幼児期 ２）児童期 ３）青年期と自己理解 ４）成人期 ５）老年期
１２～１４	３．健康の心理と理解	１）患者の理解 ２）看護職者の理解 ３）カウンセリングと心理療法
１５	３．終講試験及び振り返り	１）終講試験 ２）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	看護学生のための心理学　　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　　１単位	対象学年
哲学	外薗　幸一	時間数　３０時間	１　年次

学習目標（ねらい）

1．人間存在と死、及び生き方や生きる価値について理解し、一人一人の人間存在の重要性について深く思考することができる。

回　数 (1回90分)	単　　元	学 習 内 容・方 法
1～3	1．哲学とは何か	1）人類の心の歴史～「哲学の誕生」 2）現代哲学の諸傾向とその問題点
4～9	1．人間とは	1）人間とは何か 2）生命とは何か 3）人間はどう生きるべきか
10～14	2．現代に生きる人間と哲学	1）心と身体 2）生と死 3）人間の社会性 4）現代医療と生命倫理
15	4．課題レポート及び振り返り	1）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成度	プリント

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　１　単位	対象学年
英語　Ⅰ	坂本　育生	時間数　３０　時間	１　年次

学習目標（ねらい）

１．国際社会に対応し得る英語力および英会話の基礎を養い、さまざまな場面で活用していく基礎的能力の習得を目標とする。また、看護、医療英語の基礎にも若干触れる予定である。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
１回	動機付け授業	オリエンテーション、動機付け授業 ：看護師にとっての英語学習の意義について
２～６回	英語基本練習 ：文型や基本文法の復習 ビデオやCD、DVD教材の併用	1）英文法の基礎の復習、簡単な英文解釈 2）簡単な英文解釈と英作文の練習 ：ＶＴＲ･DVD,CDなどの視聴覚教材の併用
７回	中間テスト	前半の授業内容理解の評価
8～13 回	英語応用練習 ：基礎英文講読（看護、医療、介護関係） 英文講読や会話練習	１）英作文指導(自己紹介文など) ２）基本文法把握後の簡単な英文解釈、特に看護、医療、介護関係の簡単な英文講読と会話練習などを中心に行う。
14	後半の授業の総復習	
15	終講(期末)試験及び授業反省	後半の授業内容理解の評価

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 および授業状況、レポート	プリント教材とビデオ、ＣＤ、ＤＶＤなどを使用します。辞書としては、電子辞書はカシオのX-Ward、紙の辞書は、旺文社の「英和中辞典」を推薦します。

備　考：英語力に自信がない人は、今一度中学校の教科書と高等学校使用した、英語Ⅰの教科書を復習することをお薦めします。

授業科目 英語　Ⅱ	担当講師名 入江　公啓	単位数　1　単位 時間数　30　時間	対象学年 3年次

学習目標（ねらい）

1．看護に必要な専門英語を学ぶことができる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～6	1.基礎的医学英語	1）オリエンテーション 2）主要な疾患に関する医学英語 3）主要な症状に関する医学英語
7～14	2．看護に関する英会話	1）診療場面における英会話 2）入院生活場面における英会話
15	3．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 授業貢献度	やさしい看護英語　　成美堂 プリント

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　１単位	対象学年
社会学	佐野　正彦	時間数　３０時間	１　年次

学習目標（ねらい）

１．社会構造や社会的存在としての人間を理解し、人間に影響を及ぼす社会的要因について理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1	１．社会と人間	1)「社会学の考え方」の構造 社会学的想像力
2	２．社会を構成する基礎的要素	1)　社会的存在としての人間
３～４	３．集団と組織	1) 集団の特色 2) 社会構造と集団・組織・ネットワーク
５～７	４．家族の機能と構造	1) 家族とは　　近代について・自分捜し 2) 家族社会の変遷 3) 現代の家族問題
８～10	５．地域社会の変容過程	1)くらしと 地域社会 2) 地域開発と地域社会変動 3) 地域社会の共同性 4) 社会的評価の視点
11	６．職業とは	1) 看護という仕事
12～13	７．みえるものをよりみえるようにすること	1) 現代とは 2) 現代の特徴
14		1) 社会的行為としての医療行為
15	８．医療と社会 ９．終講試験及び振り返り	1) 終講試験 2) 学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	リアリティの社会学　　八千代出版

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　１単位	対象学年
教育学	髙谷　哲也	時間数　３０時間	１　年次

学習目標（ねらい）

1. 教育という営みの本質と，人間の成長発達における教育の作用について，基礎的理解を深める。
2. 「教える」―「学ぶ」関係性について，自己の経験と専門的知見の両面から確認する。
3. 教育という営みと看護という営みの共通性や関係性について，実感を伴った整理を行う。

回　数	単　元	学習内容・方法
1	オリエンテーション	教育学で学ぶこと・本授業の進め方の紹介・体験
2	経験に左右される教育者の理想	自身の被教育経験の振り返りと理想像の確認
3	子どもの成長を促す要素	映像視聴と学校教育の意義・役割の理解
4	人間の学習と成長・発達	学習・成長・発達の基礎概念の理解
5	教育方法の基本原則	ワークショップ：個別学習と集団学習
6	教えることと学ぶこと	ワークショップ：教育者と学習者の関係の整理
7	集団の中での成長と社会化	家庭教育の役割と社会化の概念の理解
8	学習者に働く見えない力	映像視聴と隠れたカリキュラムの特徴の実感
9	学習形態の特徴と学び合い	映像視聴と学び合いの特徴の理解
１０	学習者の成長可能性への着目	映像視聴と子ども観・指導観・教育観の省察
１１	学習者の想いと教育者の役割	映像視聴と教育者の役割の理解
１２	教育評価の意義と基礎	ワークショップ：相互評価を通した教育評価理解
１３	成人の学習の特徴	自己主導学習と省察を通した専門職の成長の理解
１４	学びを左右する学習観	教育と学びを左右する学習観・教育観の理解
１５	まとめと終講試験	学習のまとめと最終確認

評価方法	テキスト・参考書等
・演習課題ワークシート ・全15回の記録シート ・論述試験	プリント資料を配付する

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　１単位	対象学年
人間関係論　Ⅰ	大坪　治彦	時間数　３０時間	１　年次

学習目標（ねらい）

１．人間関係に関する基礎理論を学び、人間関係を作る基礎的技術を習得できる。

回　数	単　元	学習内容・方法
1	1．人間存在と人間関係	1）人間関係基礎理論
2～3	2．社会的相互作用と社会的役割	1）社会的相互作用 学習理論の基礎 アイデンティティ 2）社会的役割
4～7	3．コミュニケーション	1）コミュニケーションとは 2）コミュニケーションの実際 バーバルコミュニケーション ノンバーバルコミュニケーション コミュニケーションの障害、歪み、虐待 カウンセリングの傾聴技法
8～14	4．人間関係の研究と技法	1）人間関係に関する研究 社会心理学の知見 リーダーシップ理論 2）カウンセリングとその技法 3）人間関係のスキルトレーニング
15	5．終講試験	事例演習を通して具体的に人間関係の向上へのスキルを身につける

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	人間関係論　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1単位	対象学年
人間関係論　Ⅱ	大坪　治彦	時間数　15　時間	2　年次

学習目標（ねらい）

1．健康に問題を持つ人や、それを取り巻く人々を対象にした人間関係について学ぶ。

回　数	単　元	学習内容・方法
1	1．保健医療チームの人間関係	1）専門職の協力と連携
2	2．闘病生活を支える人間関係	1）患者・家族と保健医療従事者
3～4	3．家族の関係	1）家族関係論と看護ケアの視点 2）家族看護の進め方
5～7	4．ターミナルケアにおけるコミュニケーション	1）死別の準備と人間関係 2）死別後のケアとしての人間関係
	5．ソーシャルサポートネットワーク	1）ソーシャルサポートネットワークとは 2）ソーシャルサポートーネットワークの活用
8	6．終講試験	

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	人間関係論　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
保健体育　Ⅰ	高岡　綾子	時間数　３０　時間	３　年次

学習目標（ねらい）

1.看護者として、自身の健康維持・増進に必要なコアトレーニングやストレッチについて正しく理解し実技を身につける
2.仲間と共に生涯スポーツとしてのエアロビックを愉しむ
3. 特定の対象者に対する運動療法の理解を深める（妊娠期）

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1	1. オリエンテーション	1. コミュケーションシートを作成し提出
2	2. 自分の体を知る	2. モニタリングシートを作成することによって、自分の体の癖に気付き、快適に動ける姿勢や生活習慣の改善をはかる。
3	3. コアトレーニング基礎	3. メソッドを学び、リセットコンディショニング、アクティブコンディショニングの基本を身につける
4	4. コアトレーニング応用	4. 2 で気づいた自身の体に対して、3 で学んだことを応用し動きやすい体、快適に動ける体づくりを行う
5	5. ストレッチング基本	5. 理論を理解し、正しい行い方の基礎を身につける
6	6. ストレッチング応用	6. 5 で学んだことを、様々な場面、症状、対象者などの必要に応じて行えるようにする
7	7. リズム運動からエアロビックへの導入	7. 音楽を使用して、大人数、またはグループや 2 人組で動けるようにする
8	8. エアロビック基本	8. 基本のステップを学び、グループで演技できるように練習する
9	9. エアロビック発展	9. グループで一連の動きを作品として練習する
10	10. 発表会	10. 互いの動きを見て評価する
11	11.　妊娠期における運動療法について　理論編	11. 看護者としてまた自身の問題としてその意義や効果を学ぶ。
12	12.　妊娠期における運動療法について　実技編	12, 理論をもとに病院等で実際に行われている教室の流れを体験する
13	13.　妊娠期における運動療法について　理論編②	13. 妊娠期の運動を家庭で家族とともに行うことの意義を学ぶ
14	14.　妊娠期における運動療法について　実技編②	14. 理論をもとに家庭で家族と行うことのできる実技を体験する
15	15. 筆記テスト１	15. 授業内容の確認

評価方法	テキスト・参考書等
実技試験、筆記試験、授業態度などを総合的に判断して評価する　筆記試験	3年次に購入

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
保健体育　Ⅱ	福満　博隆	時間数　１５　時間	１　年次

学習目標（ねらい）

１．日常生活におけるレクリエーションを学び、看護の場への活用方法を理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1	1．レクリエーションの理論と実技	1）普段何気なくしているレクリエーションの心身に与える影響について学ぶ
2	2．レクリエーション計画と指導の原則	1）対象に応じたレクリエーションの企画 2）健康づくり運動、ゲーム
3	3．遊びリテーションの意義	1）グループワークゲーム
4～6	4．遊びリテーションの進め方と実際	1）アイスブレイキングの体験１ 2）アイスブレイキングの体験２
7～8	5．ゲーム等の指導実践演習及び終講試験	1）ゲーム・ソングの指導法の実際

評価方法	テキスト・参考書等
実技試験	プリント

備　考

専 門 基 礎 分 野

授業科目 形態機能学　Ⅰ	担当講師名 牛飼　美晴 宮原　恵弥子	単位数　１単位 時間数　３０時間	対象学年 １　年次

学習目標（ねらい）

１．身体の内部環境の恒常性を維持する機能が理解できる。

２．人間にとって栄養の意義と各栄養所要量が理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
１～８	１．身体内部の環境の恒常性	1) 体液の分類と量 2) 体液の電解質 3) 血漿のＰＨ 4) 動脈圧の酸素分圧 5) 血漿の糖分 6) 体温 7) 代謝 ・エネルギー代謝・酵素・異化作用と同化作用
	中間試験	
９～14	２．各栄養素の栄養的意義	1) 炭水化物の栄養的意義 2) 脂質の栄養的意義 3) 蛋白質の栄養的意義 4) ビタミンの栄養的意義 5) 無機質の栄養的意義 6) 水の栄養的意義
	３．栄養所要量とエネルギー所要量	1) 栄養所要量 2) エネルギー所要量 3) 各種栄養素の所要量
15	４．終講試験及び振り返り	1) 終講試験 2) 学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	解剖生理学　医学書院 生化学　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
形態機能学　Ⅱ	田松　裕一	時間数　３０時間	1　年次

学習目標（ねらい）

1．人体の構造と解剖学用語を理解できる。

2．人体を構成する最小単位である細胞の形態と機能が理解できる。

3．恒常性を維持するための物質の流通に関係する器官の形態と機能が理解できる。

4．恒常性維持のための調節機構が理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～2	1．人体の構造	1）人体の大要と解剖学用語 2）人体各部の名称 3）人体の構成
3	2．個体を外界から区別するもの －皮膚	1）皮膚の構造 2）皮膚の機能
4～6	3．恒常性を維持するための 物質の流通媒体	1）流通の媒体－血液 ・血液の成分とリンパ液 ・血液の働き ・血液型
7～9	4．恒常性を維持するための 物質の流通路	1）流通路－血管・リンパ管 ・血管の構造 ・血液の循環 ・体液移動の原理 ・リンパ管とリンパ節
10～11	5．流通の原動力	1）流通の原動力－心臓 ・心臓の構造 ・心臓の拍動 ・血圧 ・脈拍
12～14	6．恒常性維持のための調節機構	1）神経調節 ・神経調節とは ・受容器－情報を得る ・中枢神経系－認識し、判断する ・末梢神経－情報を伝える ・情報伝達の方法 2）液性調節 ・ホルモンとは何か ・全身のホルモンの分泌器官 ・ホルモンの作用機序 ・ホルモンの分泌の調節 ・恒常性維持のためのホルモンの働き 3）ストレスと恒常性の維持
15	7．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	看護形態機能学　日本看護協会出版会 解剖生理学　医学書院

備　考

授業科目 形態機能学　Ⅲ	担当講師名 田松　裕一	単位数　１単位 時間数　３０時間	対象学年 １　年次

学習目標（ねらい）

１．生命維持のための呼吸にかかわる器官の形態と機能が理解できる。

２．血液の酸塩基平衡が理解できる。

３．身体を動かすことに関する器官の形態と機能が理解できる。

４．人間にとっての「眠る」ことの生理が理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
１～４	１．息をする	1）息を吸う、息を吐く 2）ガス交換 3）血液の酸塩基平衡と呼吸 4）運動時の酸素摂取
５～８	２．動く	1）姿勢 2）神経から筋への指令と筋の収縮 3）意図的でない運動－反射 4）意図的な運動－随意運動 5）骨格・骨格筋・関節 6）日常生活での基本的動き
９～11	３．話す・聞く	1）声を出す 2）聞く 3）言葉
12～14	４．眠る	1）眠り 2）からだのリズム 3）睡眠の生理
15	５．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	看護形態機能学　日本看護協会出版会 解剖生理学　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
形態機能学 Ⅳ	田松　裕一	時間数　３０　時間	1　年次

学習目標（ねらい）

1．食べる事にかかわる器官の形態と機能が理解できる。

2．排泄にかかわる器官の形態と機能が理解できる

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～7	1．食べる	1）食欲 2）食行動 3）咀嚼し味わう 4）飲み込む（嚥下） 5）消化と吸収
8～14	2．排泄する	1）排尿 2）排便
15	3．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	看護形態機能学　日本看護協会出版会 解剖生理学　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
形態機能学 V	田松　裕一	時間数　３０　時間	1　年次

学習目標（ねらい）

1．生命を生み出す男女の生殖に関する機能と形態が理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～11	1．子どもを産む	1)　男女の身体 2)　性機能 3)　人間の発生 4)　妊娠の継続 5)　出産
12～14	2．子どもが育つ	1)　新生児の生理
15	3．終講試験及び振り返り	1)　終講試験 2)　学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	看護形態機能学　日本看護協会出版会 解剖生理学　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1 単位	対象学年
栄養学	町田　美由紀	時間数　１５時間	1　年次

学習目標（ねらい）

１．ライフステージと栄養・臨床栄養の意義とその実際が理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
１～３	１．ライフステージと栄養	1)　成人の生活活動と栄養 2)　栄養素とその働き 3)　妊娠・授乳期における栄養 4)　成長期における栄養 5)　老年期における栄養
４～７	２．臨床栄養	1)　臨床栄養の意義 2)　栄養療法の分類 循環器疾患と栄養食事療法 消化器疾患と栄養食事療法 腎疾患と食事 栄養代謝疾患と食事 血液疾患、術前・術後の食事 妊婦、産婦、褥婦、小児の食事 3)　食事療法の進め方 4)　食事療法の実際
8	３．終講試験	1)終講試験 ２）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	栄養学　　医学書院

備　考

授業科目 薬理学	担当講師名 武田　泰生	単位数　１単位 時間数　３０　時間	対象学年 １　　年次

学習目標（ねらい）

１．薬物の特徴、薬理作用および、人体への影響と薬物の管理について理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
１～３	１．薬理学総論	１）　薬物治療の目指すもの ２）薬はどのように作用するのか ３）薬はどのように体内をめぐっていくのか ４）薬効に影響する因子 ５）薬物中毒はなぜおこるのか ６）薬の管理と新薬の誕生 ７）各種製剤と処方箋 ８）処方の実際と看護
４～14	２．薬理学各論	１）抗感染症薬 ２）抗がん薬 ３）免疫治療薬 ４）抗アレルギー・抗炎症薬 ５）末梢での神経活動に作用する薬物 ６）中枢神経系に作用する薬物 ７）心臓・血管系に作用する薬物 ８）呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 ９）物質代謝に作用する薬 10）皮膚科用薬・眼科用薬 11）救急の際に使用される薬物 12）漢方薬 13）消毒薬
15	３．終講試験及び振り返り	１）終講試験 ２）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	薬理学　　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　１単位	対象学年
微生物学	下捨石　雄大	時間数　３０　時間	１　　年次

学習目標（ねらい）

１．微生物の特徴と生態に及ぼす影響、微生物によって引き起こされる感染症に対処できるための基礎的知識を理解できる。

回　　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
１～５	１．微生物学の基礎	１）微生物と微生物学 ２）細菌の性質 ３）真菌の性質 ４）原虫の性質 ５）ウイルスの性質
６～10	２．感染とその防御	１）感染と感染症 ２）感染に対する生体防御機構 ３）感染源・感染経路から見た感染症 ４）感染症の予防 ５）感染症の診断 ６）感染症の治療
11～14	３．主な病原微生物	１）病原細菌と細菌感染症 ２）病原真菌と真菌感染症 ３）病原原虫と原虫感染症 ４）主なウイルスとウイルス感染症
15	３．終講試験及び振り返り	１）終講試験 ２）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	微生物学　　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
病理学　I	吉永　あゆみ	時間数　３０　時間	1　年次

学習目標（ねらい）

1．病理学の概要、健康障害を引き起こす病因・病変を理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1	1．病理学の概念 2．病気の原因	1）病理学とは
2	3．先天異常と遺伝子異常	1）先天異常 2）遺伝子異常、遺伝子疾患 3）染色体異常による疾患、胎児の障害、診断
3～5	4．代謝異常	1）細胞の損傷と適応、物質沈着、 2）糖質・たんぱく質、脂質代謝障害と疾患
6～8	5．循環障害	1）循環器系の概要 2）局所性・全身性・リンパの循環障害
9～10	6．炎症と免疫、膠原病	1）炎症の各型 2）免疫 3）アレルギーと自己免疫疾患、膠原病
11～12	7．感染症	4）移植と免疫 1）病原体と感染症 2）宿主の防御機構 3）主な病原体と感染症 4）感染症の治療、予防
13	8．腫瘍	1）腫瘍の定義と分類 2）腫瘍の発生病理 3）悪性腫瘍の転移と進行度、診断と治療
14	9．老化と死	1）細胞の老化と個体の老化 2）加齢に伴う諸臓器の変化 3）固体の死
15	10．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	病理学　　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
病理学　Ⅱ	長柄　英男 橋口　照人	時間数　３０時間	1　　年次

学習目標（ねらい）

1．生体の恒常性を維持する物質の流通の障害と、病態生理、診断、治療について理解できる。

回　　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～7	1．循環器系の疾患	循環器系の疾患 1）症状と病態生理 胸痛・動悸・呼吸困難・浮腫 2）検査と治療 心電図・心臓カテーテル法・内科的治療 外科的治療 3）疾患の理解 （1）狭心症 （2）心筋梗塞 （3）拡張型心筋症 （4）大動脈瘤
8～14	2．血液リンパ系の疾患	血液・リンパ系の疾患 1）症状と病態生理 貧血・白血球増加症・白血球減少症 出血性素因 2）検査と治療 末梢血検査・血液型・輸血・化学療法 3）疾患の理解 （1）再生不良性貧血 （2）白血病 （3）悪性リンパ腫
15	3．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	病理学　　医学書院 循環器　　医学書院 血液・造血器　　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
病理学　Ⅲ	栃木　裕作 西尾　善彦 興野　康也	時間数　３０　時間	1　年次

学習目標（ねらい）

1．生体の恒常性を維持する調節機能の障害と病態生理、診断、治療について理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～5	（生体の恒常性を維持する調節機能の障害） 1．脳神経系の疾患	1）症状と病態生理 意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害 2）検査と治療 神経学的検査、補助的検査法、外科的治療法 内科的治療法 3）疾患の理解 （1）脳疾患 （2）脊髄疾患 （3）神経・筋疾患 （4）脳・神経系の感染症
6～9	2．内分泌系の疾患	1）症状と病態生理 2）検査と治療 3）疾患の理解と治療 （1）糖尿病 （2）甲状腺機能亢進症・低下症
10～14	3．精神疾患系の疾患	1）症状と病態生理、検査、治療 2）精神症状の種類 知覚の障害、思考の障害、自我意識の障害 感情の障害、意欲・行動の障害 3）状態像（精神病像） （1）不安状態 （2）心気状態 （3）幻覚妄想状態 （4）中枢神経症状
15	4．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	病理学　医学書院 内分泌・代謝　医学書院 脳・神経　医学書院 精神看護の基礎　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
病理学　Ⅳ	新井　尚希 田中　雅代	時間数　１５　時間	2　年次

学習目標（ねらい）

１．「息をする」が障害される病態生理、症状、検査・治療を理解できる。

２．「話す」「聞く」「見る」「触れる」「臭いをかぐ」ことが障害される疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1 2～3 4 5	（息をする機能の障害） 1．呼吸器系の疾患	1）症状と病態生理 喀痰・咳・胸痛・呼吸困難・チアノーゼ 喘鳴・ばち状指 2）検査・治療 (1)人工呼吸法 (2) 呼吸理学療法 (3)胸腔ドレナージ 3）疾患の理解 (1) 感染症（肺炎・肺結核） (2) 間質性肺炎 (3) 肺がん (4)呼吸不全
6～7	（話す・聞く・臭いをかぐ機能の障害） 2．感覚器系の疾患	1）症状と病態生理 2）検査と治療・処置 3）疾患の理解 (1)中耳炎 副鼻腔炎 咽頭がん
8	3．終講試験	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	病理学　医学書院 呼吸器　医学書院 耳鼻咽喉　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
病理学　V	中田　博光 内田　洋介	時間数　３０　時間	2　年次

学習目標（ねらい）

1．「食べること」が障害される疾患の病態生理、症状、検査、治療が理解できる。

2．「排泄すること」が障害される疾患の病態生理、検査、治療が理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
(講義) 1 2 3～4 5～7 8～10	(食べることの機能障害) 1．消化器系の疾患	1．症状と病態生理 嚥下困難・嘔気、嘔吐・腹水・黄疸・肝性脳症 2．検査・治療 3．疾患の理解 1) 食道がん 2) 胃・十二指腸潰瘍 3) 胃がん 4) クローン病 5)潰瘍性大腸炎 6)大腸がん 7) イレウス 8) 胆石症 9) 急性・慢性肝炎 10) 肝硬変 11) 肝臓がん
10～11 12～14	(排泄することの機能障害) 1．腎・泌尿器系の疾患	1．症状と病態生理 2．検査・治療 3．疾患の理解 1) 糸球体腎炎 2) 腎不全 3) 尿路結石 4)膀胱炎・腎盂腎炎 5) 前立腺肥大症 6) 前立腺がん 7) 膀胱がん
15	終講試験及び振り返り	1) 終講試験 2) 学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	病理学　医学書院 消化器　医学書院 腎・泌尿器　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
病理学　VI	米盛　公治	時間数　１５　時間	1　年次

学習目標（ねらい）

１．「動く」が障害される疾患の病態生理、症状、検査、治療が理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
（講義） １～７	（「動く」機能が障害） １．骨関節系の疾患	１．症状と病態生理 ２．診断・検査と治療・処置 １）診察・診断の流れ ２）検査 ３）治療・処置 (1) 保存療法 (2) 理学療法と作業療法 (3) 手術療法 (4) 義肢と装具 ４）疾患の理解 (1) 外因性の運動器疾患 ① 骨折 ② 脱臼 ③ 捻挫および打撲 ④ 神経の損傷 ⑤ 筋・腱・靭帯などの損傷 (2) 内因性の運動器疾患 ① 骨・関節の炎症性疾患 ② 骨腫瘍および軟部腫瘍 ③ 代謝性骨疾患 ④ 筋・および腱の疾患 ⑤ 神経の疾患 ⑥ 上肢および上肢帯の疾患 ⑦ 脊椎の疾患 ⑧ 下肢および下肢帯の疾患
8	終講試験	1) 終講試験 2) 学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	病理学　　医学書院 運動器　　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
病理学　Ⅶ	宇都　弘美 田原　博幸	時間数　３０時間	2　年次

学習目標（ねらい）

1．「子どもを生む」「発育」が障害される疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1	（「子どもを生む」機能の障害） 1．女性生殖器系の疾患	1．症状と病態生理 2．検査と治療・処置 3．疾患の理解 1）卵巣嚢腫　3）子宮がん 2）子宮筋腫　4）乳がん
2	2．男性生殖器系の疾患　検査・治療	1）症状と病態生理、検査・治療 2）睾丸腫瘍 3）無精子症・精子減少
3～4	3．妊娠・分娩を阻害する状態　検査・治療	1）妊娠高血圧症候群、妊娠悪阻、流早産、妊娠中の出血 2）胎児および付属物の異常 3）産道の異常　（ＣＰＤ） 4）娩出力の異常（過強陣痛・微弱陣痛） 5）胎児および付属物の異常 6）分娩時の異常出血
5～7	4．産科手術	1）帝王切開　2）腟式産科手術
	5．産褥を阻害する状態、検査・治療	1）産褥感染症　3）晩期出血 2）子宮復古不全
8～14	6．発育を阻害する状態、検査・治療	1）呼吸器系疾患　2）循環器系疾患 3）消化器系疾患　4）腎・泌尿器系疾患 5）感染症　6）脳神経疾患 7）アレルギー性疾患　8）代謝・内分泌疾患 9）悪性新生物　10）川崎病
15	8．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	病理学　医学書院 母性看護学各論　医学書院 小児臨床看護各論　医学書院 成人看護学［９］女性生殖器　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
公衆衛生学	小松　正治	時間数　15　時間	2　年次

学習目標（ねらい）

1．公衆衛生の組織的な保健活動と関連する法令や統計情報を理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～2	1．公衆衛生の基礎	1．公衆衛生の理念 2．医療の動向と医療保障 3．公衆衛生と国際化
3～6	2．公衆衛生と地域保健	1．地域保健 1）地域と健康 2）地域の特性・地域保健の展開方法 2．母子保健 1）健やか親子２１ 2）子育てと家族 3）リプロダクティヴ・ヘルス/ライツ 4）ジェンダー 3．学校保健 4．成人・老人保健 1）成人・老人保健 2）生活機能と保健活動 5．精神保健 1）精神保健福祉法と障がい者プラン 2）精神保健福祉の概念と施策の現状 6．難病保健 1）難病保健の歴史と現在 2）難病保健システム
7	3．公衆衛生と環境保健	1．公衆衛生と環境保健 1）生活環境 2）産業保健 3）感染症・危機管理
8	4．終講試験及び振り返り	1．終講試験 2．学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	健康支援と社会保障制度［２］ 公衆衛生学　　医学書院 国民衛生の動向

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　2 単位	対象学年
社会福祉学	田畑　洋一	時間数 ３０ 時間	2　年次

学習目標（ねらい）

1．社会福祉の制度、及び動向についての基礎的知識を習得し、保健・医療・福祉の連携の重要性を理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1	1．社会保障制度と社会福祉	1．　社会保障制度 2．　社会福祉の法制度 3．　社会福祉の歴史
2～3	2．現代社会の変化と社会保障福祉の動向	1．現代社会の変化 2．社会保障・　社会福祉の動向
4～5	3．医療保障	1．医療保障の沿革 2．医療保障制度の構造と体系 3．健康保険と国民健康保険
6～7	4．介護保障	1．介護保険制度創設の背景と介護保険の歴史 2．介護保険制度の概要 3．介護保険制度の課題と展望
8～9	5．所得保障	1．所得保障制度のしくみ 2．年金保険制度 3．社会手当て 4．労働保険制度
10～11	6．公的扶助	1．貧困・低所得問題と公的扶助制度 2．生活保護制度のしくみ 3．低所得対策 4．近年の動向
12～13	7．社会福祉の分野とサービス	1．高齢者福祉・障がい者福祉・児童家庭福祉
14	8．社会福祉実践と医療・看護	1．社会福祉の検討課題 2．社会福祉実践と医療・看護との連携
15	9．終講試験及び振り返り	1）　終講試験 2）　学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	社会保障　生活を支えるしくみ　　学文社

備　考

グループワークの活用：事例を用いて討議させる

授業科目 関係法規	担当講師名 安藤　哲夫	単位数　1　単位 時間数　１５時間	対象学年 2　年次

学習目標（ねらい）

１．看護に必要な法規について理解し、看護職の役割と責任を自覚することができる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1	1．法の概念	1. 法とは 2. 看護法と医事法 1）保健師助産師看護師法 2）医師法 3）医療法 4）関係資格法 5）医療を支える法（臓器の移植に関する法律等）
2～7	2．関連法規	3. 保健衛生法　1)地域保健法　2）精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 3）精神保健福祉士法 4）母体保護法 5）母子保健法 6）学校保健法 7）健康増進法　8）がん対策基本法 9）感染症の予防及び感染症の患者に関する法律 4. 薬務法 1)薬事法　2)麻薬及び向精神薬取締法 3)安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律 5. 環境衛生法 1）食品安全基本法　2）食品衛生法 3）公衆浴場法 2）食品衛生法 3）公衆浴場法 6. 社会保険法 1）社会保障の仕組み 2）健康保険法　3）国民健康保険法 4）高齢者の医療の確保に関する法律 5）介護保険法 7. 福祉法 1)社会福祉法　2）生活保護法　3）福祉の共通的事項に関する法 4)児童分野　①児童福祉法②個別的な児童法　・子ども・子育て支援法・母子及び父子並びに寡婦福祉法 5)高齢分野　①老人福祉法　②個別的な高齢者法 6）障害分野　①障害者基本法　②障害者総合支援法 ③個別的な障害者法 ・知的障害者福祉法　・身体障害者福祉法　・発達障碍者支援法 ・障害者虐待防止法 8. 労働法と社会基盤整備 1)労働法　①労働基準法　②労働安全衛生法　③労働者災害補償保険法 ④雇用保険法⑤育児休業、介護休業等育児又は**文**家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 2)社会基盤整備等　①男女共同参画社会基本法　②次世代育成支援対策推進法 ③少子化社会対策基本法　④高齢社会対策基本法　⑤個人情報の保護に関する法律 9. 環境法 1）環境基本法 2）大気汚染防止法 3）廃棄物の処理及び清掃に関する法律 4）公害健康被害の補償等に関する法律 5）公害紛争処理法 6）自然保護法
8	3．終講試験	

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	健康支援と社会保障制度［４］　看護関係法令　　医学書院

備　考

授業科目 保健医療論	担当講師名 野田　伸一	単位数　1　単位 時間数　１５時間	対象学年 1　年次

学習目標（ねらい）

１．医療と看護の原点について学び、医療の現状、問題、医療をめぐる新しい動向を理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1	1. 医療と看護の原点	1）いのちと健康 2）病の体験 3）癒しの行為と癒しの知 4）医療的ケアと管理
2～3	2. 医療の歩みと医療観の変遷	1）現代医学の起源 2）20 世紀の医療 3）我が国の医療がたどってきた道 4）医療観の移り変わり
	3. 私たちの生活と医療	1）もしも私たちが病気やけがをしたら 2）私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政 3）疾病の一次予防と生活習慣病の考え方 4）高齢社会と世代間のきずな 5）障害者のノーマライゼーションと新たな社会的きずな
4～5	4. 技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題	6）こころの健康と精神医療 1）先端医療技術の成果と私たちの新たな課題 2）産業社会の発展と人間の健康
	5. 成熟する社会と人々の意識変革	1）医療不信から「賢い患者へ」 2）インフォームドコンセントと医療情報開示
6	6．医療を見つめなおす新しい視点	1）はじめに―「医」における「論理」と「倫理」そして「管理」 2）医療人類学と受領行動学の研究 3）医療の倫理 4）臨床疫学―臨床医の合理的判断 5）医療の管理と医療の評価
7	7．保健・医療の新しい潮流	1）医療変革の波とともに始まる２１世紀 2）新時代の保健・医療の担い手について 3）プライマリーケアの新たな展開 4）医療におけるケアの視点―心の通った医療を取り戻す 5）これからの先端医療技術開発 6）情報化社会と医療 7）保健・医療の国際化 8）地域包括医療システムの新しい展開 9）保健・医療システムと地域住民の役割 10）地球時代のケアと情報技術のネットワーク
8	8．終講試験	

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	健康支援と社会保障制度[１]総合医療論　医学書院

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
臨床心理学	大坪　治彦	時間数　１５時間	3　年次

学習目標（ねらい）

1．健康問題と人間心理の関係について触れ、人間の病的状態における心理状態に対し、どのような援助が必要としているかについて学ぶ。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1	1．臨床心理学とは	1)　臨床心理学の役割 2)　臨床心理学の課題と方法
2	2．パーソナリティの健康と健康障害	1)　正常と異常の判断 2)　コーピングと防衛の仕組み 3)　生涯発達と心理的危機
3～4	3．クライエント(心に問題を持つ人)の理解	1)　各期の心理臨床的問題
5	4．心理アセスメントの技法	1)　心理アセスメントの概念枠組み 2)　心理アセスメントの実際
6	5．心理カウンセリングの技法	1)　基本的な視点 2)　クライエント個人へのアプローチ
7	6．医療の場における心理学的問題	1)　臨床心理専門家の使命と展望
8	7．終講試験	

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	プリント 人間関係論　　医学書院

備　考

専　門　分　野　I

基 礎 看 護 学

授業科目 基礎看護学概論	担当講師名 大山 もと子(26H) 五味　靖 (4H)	単位数　1 単位 時間数 30 時間	対象学年 1　年次

学習目標(ねらい)

1．看護の本質、役割と機能、継続性について学び看護とは何か考える態度を身につける。

2．看護の対象である人間、生活と健康のとらえ方について学ぶ。

3．看護職の養成と就業、教育と課題について学び看護職とは何か考える態度を身につける。

4．看護職の持つ倫理規定、医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、その活用を考える。

5．社会においてサービスとして提供される看護のしくみを理解する。

回　数 (1回90分)	単　元	学 習 内 容 ・方 法
1～4	1．看護とは	1．看護の本質 2．看護の役割と機能 3．看護の継続性と情報共有 場と健康レベルの継続と多職種連携の重要性
5～7	2．看護の対象の理解	1．人間の「こころ」と「からだ」 生物体として生きることと生活を営み活きること 2．生涯発達しつづける存在 3．人間の「暮らし」の理解
6～8	3．健康のとらえ方と国民の健康状態	1．生活者の健康を看護の視点でとらえる 2．健康とはなにか　健康の関連要因 3．社会の変遷と健康観の変化 4．人々の生活と健康に関する統計
9～10	4．看護の提供者	1．職業としての看護 2．看護職の養成制度と就業状況 3．看護職者の教育とキャリア開発 4．看護職者の養成制度の課題
11～12	5．看護における倫理	1．現代社会と倫理 2．医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3．看護実践における倫理問題への取り組み
13～14	6．看護の提供のしくみ	1．サービスとしての看護　提供の場 2．看護をめぐる制度と政策 3．看護サービスの管理 4．医療安全と医療の質保証
15	7．まとめ及び終講試験	筆記試験

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 レポート 課題提出状況	看護学概論　医学書院　　看護覚書　現代社 看護の基本となるもの　日本看護協会出版会

備考　看護とは何か、看護職とは何かを学ぶ科目であり、看護を志す初学者としての基本となる姿勢・考え方を身につけ、自分の看護観を深めていけるよう積極的取り組みを期待する。

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
基礎看護学方法論Ⅰ	羽地　和江	時間数　３０　時間	1　年次

学習目標（ねらい）

1．看護における技術の考え方を理解できる。
2．感染防止の意義を理解し、感染防止のための技術を習得できる。
3．対象の安全を守るための基礎的知識を理解し、安全を守る技術を学ぶ。
4．医療事故・医療過誤の意味を理解し、その方策について述べることができる。
5．人間関係を成立し、発展させるための技術を学ぶ。

回　数 (1回90分)	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～2	1．看護技術とは	1．技術の概念 2．看護技術の定義 3．看護技術の意味と基本原則 4．看護技術の構成、修得 5．基礎看護技術として求められる範囲 6．看護技術の遂行に求められる能力 7．看護技術の倫理について
3～5	2．感染防止の技術	1.感染防止の基礎知識：感染の成立 2．感染防止対策の基本 3．我が国の感染に関する法律 4．滅菌用品の取り扱い：無菌操作 （滅菌パックの開封、取り出し方、鉗子・攝子の取り扱い） 5．感染予防のための援助方法の選択 6．患者・家族への対応 7．感染防止における看護師の行動
7～9	学内演習	演習 ・手洗い法、 ・無菌操作 （滅菌手袋、鑷子の取り扱い） ・ガウンテクニック
10～11	3．安全を守る技術	1．安全の意義と保証 2．ケアの場で発生しやすい事故 3．医療事故の発生要因と防止の技術 1）看護事故 2）医療事故 3）事故報告
12～14	4.人間関係を成立し、発展させるための技術を学ぶ。	1．看護におけるコミュニケーション 1）コミュニケーションの意義と目的 2）コミュニケーションの構成要素と成立過程 3）コミュニケーションの種類と概要 4）援助に必要なコミュニケーション （効果的コミュニケーションの実際）ロールプレイ
15	終講試験	1．終講試験・学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題到達度状況	基礎看護技術Ⅰ　医学書院 基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院

備　考　・看護技術の基礎を修得し、専門分野Ⅱ、統合分野へと発展させていきましょう。
・微生物学、薬理学で学んだことを想起して、看護の安全にいかしていきましょう。

授業科目	担当講師名	単位数　　１単位	対象学年
基礎看護学方法論Ⅱ	小牧　和代	時間数　３０時間	１　　年次

学習目標（ねらい）
1．看護過程の意義について理解することができる。
2．看護過程の構成要素を知り、看護過程を展開する方法を理解できる。
3．看護介入に関する記録の種類・内容・方法について理解することができる。
4．看護過程における観察、報告の目的と留意点が理解できる。

回　　数	単　元	学 習 内 容・方 法
１～３	１．看護過程とは ２．看護過程の展開方法	１．問題解決法　　演習 ２．看護過程の対象とその基本構造 ３．問題思考型システムとしての看護過程
４～５	３．記録とは	４．フィードバックシステムとしての看護過程 １）クリティカルシンキング ２）リフレクション ５．記録 １）記録の意義、目的 ２）記録の管理 ３）看護記録 ４）電子カルテ ５）経過記録とは ６）経過記録の種類 （１）ＰＯＳ （２）フォーカスチャーチング （３）クリティカルパス ２）フローチャートとは 演習　・フローチャートの記載 ・経過記録の記載
６	４．観察	６．観察とは １）観察の方法
７	５．報告	７．報告とは １）報告の意義と留意点（ＳＢＡＲの活用）
８～15	６．看護過程の展開 ７．事例展開 ８．終講試験及び振り返り	８．ヘンダーソンの看護論に沿った看護過程の展開方法 １）アセスメント ２）看護問題の明確化（看護診断） ３）看護計画の立案 ４）看護介入の実施 ５）評価 １．終講試験 ２．学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成度状況	基礎看護技術Ⅰ　医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護理論の実践　ヌーベルヒロカワ 看護の基本となるもの　日本看護協会出版会

備　考　授業前必読「看護の基本となるもの」
看護過程の展開については時間割以外の自己学習も重要です。その学習過程も評価の対象となります。

授業科目 基礎看護学方法論Ⅲ	担当講師名 櫨木　恵（２２Ｈ） 川田正輝（２３Ｈ）	単位数　１ 単位 時間数 ４５ 時間	対象学年 １　年次

学習目標（ねらい）

1．バイタルサインの意義を理解し、バイタルサイン測定の技術を習得することができる。
2．看護におけるフィジカルアセスメントの意義を理解し、フィジカルアセスメントの技術を習得し、活用することができる。

回　数 (1回90分)	単　元	学 習 内 容　・方 法
1	1．ヘルスアセスメント	1．ヘルスアセスメントとは 2．ヘルスアセスメントに必要な技術
2～9	2．ヘルスアセスメントの実際 1）バイタルサインの観察とアセスメント	1）バイタルサインとは 2）体温測定の目的と技術の実際 3）脈拍測定の目的と技術の実際 4）呼吸測定の目的と技術の実際 5）血圧測定の目的と技術の実際
10～11	学内演習	演習：バイタルサイン測定
12	2）フィジカルアセスメントとは	1．看護師の役割からみたフィジカルアセスメント 1）フィジカルアセスメントとは 2）フィジカルアセスメントに共通する技術
13～19	3）フィジカルアセスメントの実際	1．全身状態のアセスメント 1）バイタルサインの活用 2）フィジカルアセスメント ①　身体的側面 ②　呼吸器系 ③　循環器系 ④　腹部
20～22	学内演習	演習：フィジカルアセスメント 問診・視診・触診・打診・聴診
23	3．終講試験及びまとめ	筆記試験・学習のまとめ 実技試験：バイタルサイン測定

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 実技試験 課題到達度状況	基礎看護技術Ⅰ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント　インターメディカ

備　考

形態機能学で学んだ恒常性維持のための、「流通機構」、「調節機構」、「息をする」などの学習を想起しアセスメントできるようにする。

授業科目 基礎看護学方法論Ⅳ	担当講師名 池田すがよ（１０H） 羽地　和江（２０H）	単位数　　１単位 時間数　３０時間	対象学年 １　年次

学習目標（ねらい）

1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。
2. 快適で過ごしやすい環境の意義を理解し、充足のための援助技術が習得できる。
3. 「体を守る」ための清潔及び衣類を用いる意義を理解し、充足のための援助技術を習得する。

回　数	単　元	学 習 内 容・方 法
1～4	1．環境の意義・援助 学内演習	1．環境の意義 人間、健康、環境、看護と関連する。 2．環境を整える技術 1)室内環境の調整 2)病床の整備 3)環境のアセスメント 演習：ベッドメーキング 実技試験
5～11	2．清潔の意義・援助	1．身体の清潔の意義 2．清潔のニーズのアセスメント 3．清潔を保つ援助方法の選択・援助 講義：入浴・シャワー浴 講義・演習・視聴覚教材 ・部分浴（手浴・足浴・陰部洗浄）・全身清拭 ・洗髪（ケリーパッド・洗髪車） ・口腔ケア
12～14	3．衣服の意義・衣生活の援助 学内演習	1．衣服の意義 1)生理的・身体的・社会的意義 2)衣類選択の援助 2．寝衣交換 演習：寝衣交換
15	4．終講試験及びまとめ	実技試験 全身清拭および寝衣交換 筆記試験・学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 実技試験 課題達成状況	基礎看護技術Ⅱ　　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　　医学書院 看護覚書　　現代社

備　考
- 看護の概念である、人間・健康・環境・看護を関連させ考えていきましょう。
- 形態機能で学んだ「体を守る」を想起し、アセスメントに活かしましょう。
- 技術は繰り返し行い、身につけていきましょう。

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
基礎看護学方法論Ⅴ	松尾詠美子(１４H) 内野　優子(１６H)	時間数　３０　時間	1　年次

学習目標（ねらい）

1．「食べる」ことの意義を理解し、充足のための援助技術が習得できる。
2．「排泄する」ことの意義を理解し、充足のための援助技術が習得できる。

回　数 (1回90分)	単　元	学 習 内 容　・方 法
1 2 3～4	1．食事 援助技術	1．食事援助技術の概要と目的 2．栄養・食行動に関するアセスメント 3．食事介助 4．摂食・嚥下訓練
5～7	学内演習	5．非経口的栄養摂取 演習：食事介助の実際
8	2．排泄援助技術	1．排泄の基礎知識 2．排泄援助の基本的姿勢 3．排泄用具を用いた排泄行動
9 10 11 12 13～14		4．排尿障害時の援助 1）導尿 2）膀胱留置カテーテル 5．排便障害時の援助 1）摘便 2）浣腸
	学内演習	演習：便器・尿器の挿入　オムツ装着 ポータブルトイレ
15	3．終講試験及びまとめ	筆記試験

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題提出状況	基礎看護技術Ⅱ　医学書院 臨床看護総論　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院

備　考

形態機能学で学んだ「食べる」、「トイレにいく」を想起し、アセスメントできるようにする。

授業科目	担当講師名	単位数　　１単位	対象学年
基礎看護学方法論Ⅵ	内野　優子	時間数　３０時間	１　　年次

学習目標（ねらい）
1．「動く」ためのよい姿勢を保つ意義を理解し、充足のための援助技術が修得できる。
2．睡眠の意義を理解し、充足のための援助方法を学ぶ。
3．安楽の意義を理解し、充足のための援助技術が修得できる。
4．安静療法の意義を理解し、援助の方法を学ぶ。

回　数 (1回90分)	単　元	学 習 内 容・方 法
1～9	1．姿勢を保つ・活動を整える	1．姿勢・活動に関する基礎知識 2．体位 3．ボディメカニクス 4．体位変換 5．移乗動作介助 6．車椅子移乗・移送 7．ストレッチャー移乗・移送 8．姿勢・体位に関する安全 9．体位変換の新しい考え方
	学内演習	演習　　体位変換・車椅子移動
10	2．睡眠・覚醒、休息の援助	1．睡眠・休息の基礎知識 2．睡眠障害のアセスメント 3．睡眠・休息の援助
11～12	4．苦痛の緩和、安楽確保の援助	1．体位保持 2．罨法 3．リラクセーション
13～14		4．安静療法とは 安静療法を受ける患者の看護 ・安静の意義 ・安楽に安静療法を受けられるための援助
15	5．終講試験及びまとめ	

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成状況 実技試験	基礎看護技術Ⅱ　医学書院 臨床看護総論　　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 参考図書は随時紹介する

備　考　　通常私たちが、何気なく行っている活動と休息。健康に障害を受けた場合、どのように活動と休息を整えたらいいのかを学びます。形態機能学での知識を生かして、看護の学習をすすめて下さい。

授業科目 基礎看護学方法論Ⅶ	担当講師名 羽地　和江（１４Ｈ） 内野　優子（１０Ｈ） 川田　正輝（４Ｈ） 非常勤講師（２Ｈ）	単位数　　１単位 時間数　３０時間	対象学年 １　年次

学習目標（ねらい）
1．診察の援助の目的と対象の心理を理解し、援助方法が理解できる。
2．検査の目的を理解し、援助方法がわかる。
3．与薬の目的を理解し、適切な援助方法がわかる。
4．治療・処置の意義・目的を理解し、対象のニーズを知り、援助方法について学ぶ。
5．包帯の目的と種類及び包帯法の原則を理解できる。

回　数 (1回90分)	単　元	学 習 内 容・方 法
１～３	１．看護師の役割 ２．検査	１．看護師の役割 ２．検査 １）　検査の介助に関する基礎知識 ２）　検体の採取とその取り扱い ①　尿検査　②便検査　③喀痰検査 ④　血液検査　演習・採血 ３）　検査の介助
４～５	３．治療･処置	１．酸素療法 ２．演習：吸引 ３．体位ドレナージ　他
６～９	４．与薬	１．与薬 ２．与薬に伴う看護 １）経口与薬 ２）注射法 演習　・筋肉内注射　・点滴静脈内注射 ３）直腸内与薬 ４）輸血管理
10～11	５．救急救命処置	１．一時救命処置の基礎知識 ２．急変時における初期対応 ３．心肺蘇生法 デモスト　救急蘇生法、ＡＥＤ ４．止血法
12～13 14	６．創傷管理	１．創傷管理の基礎知識 ２．創傷処置　演習　包帯法 ３．褥瘡のアセスメントとケア
15	10．終講試験及びまとめ	１．終講試験・学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成状況	基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 臨床検査　医学書院

備　考　検査、治療処置においての看護とは何かを学び、必要な援助技術を身につけます。薬理学、微生物学、形態機能学、医療安全などの知識を想起し、積極的に学習に取り組んでください。

授業科目 基礎看護学方法論Ⅷ	担当講師名 大山　もと子	単位数　1単位 時間数　15時間	対象学年 2　年次

学習目標（ねらい）

1．看護研究の意義を理解することができる。
2．研究成果を活用する意義とその活用方法について理解することができる
3．研究論文の種類や研究手法について理解することができる
4．研究に必要な文献検索の方法を理解することができる。
5．研究論文を批判的に思考することの必要性を理解することができる。
6．看護研究における倫理的な問題を理解することができる。
7．研究論文のまとめ方について理解することができる。

回　数 (1回90分)	単　　元	学習内容・方法
1～4	1．看護研究の意義	1．　研究と実践活動 1）「研究」「看護研究」は何か、 2）看護研究の意義　目的 3）実践の中から発見する研究課題 演習：看護実践のエピソード記述から私的疑問を見出し、文献調べを行い、公的疑問を明確化する
	2．研究に必要な文献検索検討	2．研究に欠かせない文献検索と文献検討 1）文献検索の方法 2）文献検討とは
	3．看護研究にかかせない批判的思考	3．研究論文を批判的に読む 1）クリティークのガイドラインに沿って抄読 2）倫理委員会、研究過程の記録
5～7	4．研究論文の種類と研究手法	4．研究の種類と特徴 1）様々な研究方法、研究デザインの種類
	5．看護研究における倫理	5．倫理的配慮 1）なぜ倫理的配慮が必要か 2）倫理委員会、研究過程の記録
	6．研究成果を活用する意義と活用方法	6．研究成果の実践への活用 1）研究成果は何に役立つか 2）看護実践と理論と研究の関連性
	7．研究論文のまとめ方	7．研究の進め方 1）研究計画書を作成する意義 2）研究論文の構成（緒言～結論）
8	終講試験	筆記試験　クリティークのまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成状況	プリント 看護学概論　医学書院 看護倫理　看護研究　医学書院

備　考

研究はものごとを追求し、科学的思考力を養う大切な科目です。この科目の履修により、より良い看護を追及する姿勢を身につけ、自身で研究を行っていく基礎的能力を育成します。

研究を難しく考えず、自分自身で積極的に課題に取り組み、新たな知見を得る楽しみを見つけてください。

授業科目 臨床看護総論	担当講師名 専任教員	単位数　1 単位 時間数 30 時間	対象学年 2　年次

学習目標(ねらい)

1．健康障害をもつ人の看護学的視点が理解できる。

2．経過に基づく患者の看護を理解する。

3．主要症状を示す患者の看護を理解し、援助方法を学ぶ。

4．治療・処置を受けている患者の看護を理解する。

回　数 (1回90分)	単　元	学 習 内 容 ・方 法
1	1．健康のニーズをもつ人の理解	1．健康レベル、成長発達段階、機能障害、生活機能からとらえた対象と家族のニーズ 2．健康の維持増進を目指す看護の特徴
2～5	2．疾病の経過と看護	1．急性期、慢性期、リハビリ期、終末期における看護
6 7 8 9 10	3．主要な症状をきたす対象者への看護	1．高体温・低体温・チアノーゼ 2．疼痛 3．浮腫・脱水 4．嘔気・嘔吐・黄疸 5．意識障害
11	4．治療・処置と看護	1．放射線療法の看護
12～14	5．健康障害をもつ対象の看護	1．健康障害について問題状況を含む事例について演習する。 1）経過別 (急性期・慢性期・リハビリ期・終末期) 2）症状別 (発熱・脱水・浮腫・意識障害・疼痛) 3）治療・処置別 (安静･食事・薬物・放射線療法)
15	6．終講試験及びまとめ	1．筆記試験・学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題提出状況	臨床看護総論　　医学書院 看護過程に沿った対症看護　　学研 疾患別看護過程の展開　　学研 病態生理学　　医学書院

備考

病理学の学習を想起し、疾病が身体に及ぼす影響について考える。

授業科目 基礎看護学実習Ⅰ	担当講師名 専任教員1人 ／1G	単位数　1 単位 時間数 ４５ 時間	対象学年 1　年次

学習目標（ねらい）

1. 看護活動の実際を通して、看護の対象と環境を知ることができる。
2. 対象との人間関係を成立させ、必要な日常生活行動の援助を安全に実践できる。

回数	単　元	学 習 内 容　・方 法
	基礎看護学実習Ⅰ―① 病院	内容 1．　対象の健康障害の多様性 2．　病院および病棟、病床環境について見学、説明 ・ 部屋の種類、病室内構造、ベッドの構造、生活環境、 ・ プライバシーについて 3．　対象に行われている必要な看護援助 ・ 生活援助 ・ 診療の補助 ・ 観察・記録・報告・連絡 方法 ・ 学生１人 / 病棟看護師１人 ・ 担当看護師と行動を共にし、看護活動の実際を見学する。 実習要項・要領に準じて行う。（別紙参照） 実習記録（別紙）
	基礎看護学実習Ⅰ―② 病院	内容 1．効果的なコミュニケーション ・ 態度、表情、言葉、場と時間の工夫 2．日常生活行動援助計画と実施 3．対象の状態に合わせた日常生活行動援助計画と実施方法 ・ 受け持ち承諾を取り行う ・ 1G　：　教員１人　及び　臨床指導者配置 ・ 適宜助言指導を受け計画、実施、評価、修正、追加を行う。 ・ 学内で履修した講義を活用し、学生としての倫理を踏まえ行動する。 実習要項・要領に準じて行う。（別紙参照） 実習記録（別紙）

評価方法	テキスト・参考書等
実習評価表に基づく評価	

備　考

授業科目 基礎看護学実習Ⅱ	担当講師名 専任教員1人 ／1G	単位数　2 単位 時間数 90 時間	対象学年 2　年次

学習目標（ねらい）
1. 対象を理解し、看護実践の基盤となる知識・技術・態度を習得できる。
2. 看護過程の展開を通して対象の健康障害に伴う日常生活の援助を実践できる。

回数	単　元	学 習 内 容　・方 法
	基礎看護学実習Ⅱ	内容 対象の健康障害に伴う日常生活の援助を看護過程の展開を通し理論と共に考える。 アセスメントツールに沿って情報収集：ヘンダーソン １．基本的欲求の未充足の状態と判断：分析 ２．充足した状態と未充足を引き起こす原因、誘因の特定 ：看護問題 ４．優先順位 ５．長期、短期目標の設定 ６．看護計画、実施 ７．評価 ８．修正 自己の看護に対する考えを振り返る レポート提出： 「自己の行った看護を振り返って」 方法 ・一人を受け持ちとする。 ・１Ｇ　：　教員１人　及び　臨床指導者配置 ・適宜助言指導を受け看護過程の展開を行う。 ・学内で履修した講義を活用し、学生としての倫理を踏まえ行動する。 実習要項・要領に準じて行う。(別紙参照) 実習記録：要項参照

評価方法	テキスト・参考書等
実習評価表に基づく評価	

備　考

専　門　分　野　II

成 人 看 護 学

授業科目 成人看護学総論	担当講師名 轟木　昭子（14H） 中村　弘美（16H）	単位数　　１単位 時間数　３０時間	対象学年 １　年次

学習目標（ねらい）

1．成人期における対象の発達段階・発達課題及び発達の特徴をとらえ成人期の健康についての視点から多面的・包括的に理解する。
2．成人期の対象のセルフケア行動の促進、成人が危機を乗り越える過程とその支援のためのアプローチについて理解する。
3．成人の健康レベルに応じた健康の保持増進・疾病の予防・回復に向けた看護の役割について理解する。
4．主体的療養行動を促すための看護について理解する。

回　数	単　元	学 習 内 容・方 法
1～4	1．成人の生活と健康	1）成人と生活、大人の生活、大人の学習 2）生活と健康 3）保健・医療・福祉システム
5～7	2．成人への看護アプローチの基本	1）健康行動を生みはぐくむ援助 2）看護におけるマネジメント 3）集団・チームにおけるアプローチ 4）意思決定支援、家族支援
8～10	3．成人の健康レベルに対応した看護	1）成人期のヘルスプロモーションと看護 2）健康を脅かす要因と看護
11～14	4．成人の健康生活を促すための看護	1）健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 2）治癒過程にある患者の看護
	5．変化する医療、生活環境に対応した看護	1）療養の場を移行する人々への看護技術
15	6．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題提出・達成度の状況	成人看護学総論　　医学書院 国民衛生の動向

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う

備　考

授業科目 成人看護学方法論Ⅰ	担当講師名 中村弘美（１６Ｈ） 川田正輝（１４Ｈ）	単位数　１単位 時間数　３０時間	対象学年 １　年次

学習目標（ねらい）

１．生涯にわたり疾病コントロールを必要とする対象の看護を理解する。

回　数	単　元	学 習 内 容・方 法
１～５	１．生涯にわたり疾病コントロールを必要とする対象の看護 演習	1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする対象の看護 1)慢性の経過をたどる疾患と対象の特徴 ①対象の経験する無力感 ②病みの軌跡 2)慢性病との共存の過程を支える看護 ①セルフマネジメントの支援 3)社会生活継続への援助 ①療養の場の移行支援
６～８	２．生体の恒常性を維持する物質の流通障害のある対象の看護	1. 血液・造血器に障害のある対象の看護 1)対象の身体的・心理・社会的特徴 2)貧血・出血傾向・白血病患者の看護
９～11	３．生体の恒常性を維持する調節機構障害のある対象の看護 演習	1. 内分泌・代謝障害のある対象の看護 1)対象の身体的・心理・社会的特徴 2)糖尿病患者の特徴 3)自己血糖測定（演習）
12～14	４．「排尿すること」に障害のある対象の看護	1. 腎泌尿器系に障害がある対象の看護 1)対象の身体的・心理・社会的特徴 2)慢性糸球体腎炎患者の看護
15	１．終講試験及び振り返り	終講試験 学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題提出状況	成人看護学[４]　血液・造血器　医学書院 成人看護学[６]　内分泌・代謝疾患　医学書院 成人看護学[８]　腎･泌尿器代謝疾患　医学書院 成人看護学総論　医学書院 成人看護学　セルフマネジメント　メディカ出版 プリント

実務経験　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目 成人看護学方法論Ⅱ	担当講師名 轟木　昭子（１０H） 非常勤講師（１０H） 非常勤講師（１０H）	単位数　１ 単位 時間数　３０ 時間	対象学年 ２ 年次

学習目標（ねらい）

１．生活行動に障害のある対象の看護を理解する。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
１～４	１．生活行動に障害のある対象の看護	1. 障害がある人の生活とリハビリテーション 1)障害がある人とリハビリテーション 2) 障害がある人とその生活を支援する看護 (1) 障害がある人とその生活を支援する看護の特徴 (2) 看護の実際
５～９	２．「動く」ことに障害のある対象の看護	1. 援助のための主な知識と技術 2. 症状に対する看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 保存療法を受ける患者の看護 5. 手術を受ける患者の看護 6. 経過に応じた患者の看護 7. 疾患を持つ患者の看護 1) 大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折患者の看護 2) 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 3) 腰痛症患者の看護 4) 脊髄損傷患者の看護
１０～14	３．循環障害にある対象の看護	1. 生体の恒常性を維持する物質の流通障害のある対象の看護 1) 対象の特徴 2) 対象への看護 3) 不整脈・下肢動脈塞栓症・心不全患者の看護
１５	４．終講試験及び振り返り	1) 終講試験 2) 学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題提出状況	成人看護学総論［１］　医学書院 成人看護学［３］　循環器　医学書院 成人看護学[10]　運動器　医学書院 リハビリテーション看護　医学書院

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う

備　考

授業科目 成人看護学方法論Ⅲ	担当講師名 中村　弘美（１２H） 轟木　昭子（　８H） 非常勤講師（１０H）	単位数　１ 単位 時間数　３０ 時間	対象学年 ２ 年次

学習目標（ねらい）

１．治癒困難な対象の看護を理解する。

２．感染により障害をうけた対象の看護を理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容 ・方 法
１～４	１．治癒困難な対象の看護	1．治癒困難な対象の看護 1）治癒困難な対象の理解 2）対象への看護 3）家族への援助 2．人生最期のときを支える看護 １）緩和ケアを必要とする患者と家族への看護 （１）エンドオブライフケア (2) アドバンスケアプランニング (3) 臨死期の看取り
５～９	２．「息をする」ことに障害がある対象の看護	1．呼吸器系に障害のある対象の看護 1）対象の特徴 2）対象への看護 3）看護技術（胸腔ドレナージ・非侵襲的陽圧換気等） 4）肺癌患者の看護 5）慢性呼吸不全患者の看護
10～14	３．感染により障害をうけた対象の看護	1．感染により障害をうけた対象の看護 1）感染とは 2）対象の特徴 3）対象への看護 4）ウイルス性肝炎患者の看護 5）AIDS患者の看護 2．倫理的態度 ・偏見、差別防止 ・歴史的事実
15	４．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題提出状況	成人看護学[２]　呼吸器　　医学書院 成人看護学[11]　アレルギー膠原病・感染症 成人看護学総論　　医学書院

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う

備　考

授業科目 成人看護学方法論Ⅳ	担当講師名 轟木　昭子　（１４H） 廣森五十鈴　（４H） 西　裕美　（４H） 橋口　美和子（４H） 非常勤講師　（４H）	単位数　１　単位 時間数　３０　時間	対象学年 ２　年次

学習目標（ねらい）

１．生命危機状態にある対象の看護を理解する。
２．身体の一部を喪失する対象の看護を理解する。

回　数	単　元	学習内容・方法
１～２ ３～４ ５～６ ７～８ ９～10 11～12 13～14	１．生命危機状態にある対象の看護演習 ２．身体の一部を喪失する対象の看護	１．生命の危機状態にある対象の看護 1）生命危機状態とは 2）対象及び家族の理解 3）対象への看護 2．生体の恒常性を維持する物質の流通障害のある対象＜虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）＞の看護 1）対象の特徴 2）虚血性心疾患患者の看護 3．生体の恒常性を維持する調節機構障害（脳梗塞）にある対象の看護 1）対象の特徴 2）脳血管疾患患者の看護 1．身体の一部を喪失する対象の看護 1）周手術期の看護 2）ボディイメージの変化に対応する看護 3）対象及び家族の理解 4）対象への看護 2．「食べること」に障害がある対象の看護 1）対象の特徴 2）「食べること」に障害がある対象への看護 3．「話すこと」に障害がある対象の看護 1）対象の特徴 2）喉頭摘出を受ける対象への看護 4．「女性の生殖に関する機構」に障害のある対象の看護 1）対象の特徴 2）「女性の生殖に関する機構」に障害のある対象への看護
15	３．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題提出状況	成人看護学［５］消化器　［３］循環器 成人看護学［７］脳・神経　［14］耳鼻咽喉 成人看護学［９］女性生殖器 成人看護総論　医学書院 臨床外科総論　医学書院

実務経験　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目 成人看護学方法論Ⅴ	担当講師名 轟木　昭子（１４Ｈ） 中村　弘美（１６Ｈ）	単位数　１ 単位 時間数 ３０ 時間	対象学年 ２ 年次

学習目標（ねらい）

１．成人期にある健康状況に応じた看護の展開ができる。

回　　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～7	1．慢性期における事例展開 演習	1）臨床判断 2）セルフケアに向けたアセスメント 3）アセスメントに基づいた計画の立案 4）サマリー 方法 1）事例の看護過程を各自で展開する。 2）グループワーク 3）ディスカッション 4）総括
8～14	2．急性期における事例展開 演習	1)事例における観察とアセスメント
15	3．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題提出状況（期限厳守） 課題達成度	成人看護学[７]　脳・神経　　医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際 廣川出版

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

- 看護過程の進度の中で適宜課題提出をしていきます。
- 基礎看護学・看護過程での学びを復習して臨みましょう。

授業科目 成人看護学実習Ⅰ	担当講師名 担当教員１人/1G	単位数　２単位 時間数　９０時間	対象学年 ２ 年次

学習目標（ねらい）

成人各期にある対象の発達段階の特徴と健康の保持・増進、疾病の予防と回復の重要性を理解し、健康レベルに応じた看護が実践でき基礎的知識・技術・態度を習得できる。

回　数	単　元	学 習 内 容・方 法
	臨地実習 １．病院	１． １）生涯にわたり疾病コントロールの必要な対象の看護 ２）生活行動に障害のある対象の看護 ＊１、２）の中から１事例の対象を受け持ち以下のように展開する。 ２．受け持ち対象の発達段階の特徴や病態理解につなげるための事前学習を行う。 ３．セルフケア、日常生活行動の拡大に焦点を当て看護過程を展開する。

評価方法	テキスト・参考書等
実習評価表に基づく評価	成人看護学実習要項 関連する文献

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う

備　考

授業科目 成人看護学実習Ⅱ	担当講師名 担当教員１人/1G	単位数　４単位 時間数　１８０時間	対象学年 ３ 年次

学習目標（ねらい）

成人各期にある対象の発達段階の特徴と健康の保持・増進、疾病の予防と回復の重要性を理解し、健康レベルに応じた看護が実践でき基礎的知識・技術・態度を習得できる。

回　数	単　元	学 習 内 容・方 法
	臨地実習 １．病院	１．１）治癒困難にある対象の看護 ２）身体の一部を喪失する対象あるいは喪失した対象の看護 ３）生命危機状態にある対象の看護 ４）成人看護学実習Ｉで未実習の対象の看護 （生涯にわたり疾病コントロールの必要な対象の看護、生活行動に障害のある対象の看護） ＊１、２)、３)、４）の中から対象を受け持ち以下のように展開する ２．受け持ち対象の発達段階の特徴や病態理解につなげるための事前学習を行う ３．セルフケア、日常生活行動の拡大に焦点を当て看護過程を展開する。

評価方法	テキスト・参考書等
実習評価表に基づく評価	成人看護学実習要項 関連する文献

実務経験	看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う
備　考	

老 年 看 護 学

授業科目 老年看護学概論	担当講師名 池田　すがよ	単位数　１単位 時間数　３０時間	対象学年 １　年次

学習目標（ねらい）
1．老年看護の基本となる概念について理解できる。
2．老年期における対象の特徴を理解できる。
3．老年看護の機能と役割を理解できる。
4．社会構造の変化や高齢化に伴う老年者の保健・医療・福祉の問題に対する理解を深めることができる。

回　数	単　元	学 習 内 容・方 法
1～3	1．老年看護学の基本となる概念	1．老年看護学の基本 1）老年期の発達・変化 2）老年期を生きる対象の特徴 (1)加齢と老化 (2)身体的側面の変化 (3)心理的側面の変化 (4)高齢者の機能と評価 ・ADL・IADL・ICF・CGA・寝たきり度判定基準（障害高齢者・認知症高齢者） (5)生涯発達の考え方 (6)高齢者擬似体験による対象理解
4～6	演習	3）対象の加齢に伴う生活の理解 4）老いを生きるということ (1)老年期とは (2)高齢者の発達課題 (3)老いを生きる人々へのまなざし
7～14	2．超高齢社会と社会保障 3．老年者のニーズに最適な制度活用が支援できる、保健・医療・福祉サービスの構成とサービスの特徴 4．老年看護の成り立ち	2．超高齢社会と社会保障 1）高齢社会の統計的輪郭 2）高齢社会における保健医療福祉の動向 ・リロケーション・多職種連携 ・地域包括ケアシステム 3）高齢社会における権利擁護 ・アドボカシー・差別虐待の防止・身体拘束 ・意思決定支援 3．老年看護の基盤 1）老年看護の成り立ち 2）老年看護の役割 ・獲得体験、喪失体験・サクセスフルエイジング ・エンパワーメント・ストレングスモデル ・ライフレビュー・コンフォート理論など 3）老年看護に携わる者の責務
15	終講試験及び振り返り	1．終講試験・学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
レポート提出　筆記試験　課題達成度	老年看護学　医学書院 老年看護病態・疾患論　医学書院 国民衛生の動向

実務経験　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考
・関係法規、社会保障制度については、事前に学習しておきましょう。
・グループワークでは、主体的に取り組みましょう。
・社会の情報に関心を持ち、高齢者の課題など現状把握をしましょう。

授業科目 老年看護学方法論Ⅰ	担当講師名 上稲葉　正紀	単位数　1　単位 時間数　15　時間	対象学年 2　年次

学習目標（ねらい）

1．高齢者の日常生活の変化と生活機能を整える看護の展開を学ぶ。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1 2 3 4	1．高齢者の日常生活を支える基本的活動	1．基本的動作と環境のアセスメントと看護 ・日常生活動作 ・日常生活活動の評価指標を用いたアセスメント 2．転倒のアセスメントと看護 演習：杖歩行 3．廃用症候群のアセスメントと看護
5 6 7	2．自立生活への拡大と援助 演習	1．食事・食生活 ・高齢者に特徴的な変調 ・嚥下・摂食機能のアセスメント ・演習：口腔ケア、義歯の取り扱い方法の実際 2．排泄 ・排泄の障害、パターンの変調のアセスメント 演習：オムツ体験、陰部洗浄 3．清潔 ・高齢者に特徴的な変調 ・清潔のアセスメントと看護
8	3．生活リズムを整える看護 終講試験、まとめ	1．生活リズムのアセスメントと看護 ・高齢者に特徴的な変調 ・睡眠の評価、睡眠・覚醒パターン、環境調整 ・睡眠薬の用い方と注意点

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成度	老年看護学　医学書院 老年看護病態・疾患論　医学書院

実務経験　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

・講義の前には必ずテキストを読んでおきましょう。
・主体的学習態度を身につけましょう。

授業科目	担当講師名	単位数　１　単位	対象学年
老年看護学方法論Ⅱ	上稲葉正紀（１２H） 中田　博光（１８H）	時間数　３０時間	２　年次

学習目標（ねらい）

１、健康障害を持つ老年者の特徴と援助方法を理解した上で老年者に多い症状・状態に応じた看護、
治療・処置を受ける老年者の看護、終末期における老年者の看護を学ぶ。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
１～４	１．老年者の主要徴候・治療に焦点をあてた看護	１．　老年者によく見られる身体症状とアセスメント 発熱、痛み、掻痒、脱水、嘔吐 浮腫、倦怠感 ２．コミュニケーションと看護ケア 難聴、失語症、構音障害
５～６		３．検査・治療を受ける老年者への看護 １）検査と看護 ２）栄養ケア・マネジメント ３）薬物療法と看護 ４）手術療法と看護
７～14	２．健康障害のある老年者に必要な看護	１．疾患を持つ老年者への看護 脳卒中、心不全、パーキンソン病 インフルエンザ、肺炎、ノロウイルス 骨粗鬆症、骨折、褥瘡 ２．認知機能障害に対する看護 うつ、せん妄、認知症 ３．終末期における終末期ケア
	３．各施設における看護ケアと老年者を介護する家族の支援	１．在宅・施設におけるケア １）保健医療福祉施設における看護 ２）介護を必要とする高齢者を含む家族への看護
15	終講試験	まとめと試験

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	老年看護学　　医学書院 老年看護病態・疾患論　　医学書院

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う

備　考

授業科目 老年看護学方法論Ⅲ	担当講師名 池田　すがよ	単位数　1　単位 時間数　15　時間	対象学年 2　年次

学習目標（ねらい）

1．高齢者の特徴を踏まえ生活機能の観点から事例による看護が展開できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～2	1．老年期の特徴を踏まえた情報の整理	1．生活活動モデル・目標志向型思考への転換 1)加齢の変化 2)今までの日常生活状況　生活習慣 3)身体機能・予備力・(運動・生理機能) 4)家族背景・役割 5)価値観・健康の認識 6)心理状況 7)知覚・認知・コミュニケーション能力
3～4	2.高齢者の特徴をいかしたアセスメントと健康上の課題及び看護目標・関連因子・影響因子・変化因子の確認	2．高齢者の特徴を生かしたアセスメント 1)加齢変化及び疾患の日常生活活動への影響 2)本人の認知・理解の程度 3)家族の介護状況 4)二次障害・合併症の危険性
5～7	3.事例による看護展開 演習	3．看護計画 1) 日常生活の自立能力を高める計画 2) 活動体制を考慮した計画 3) 二次障害の予防 4) 介護家族への支援計画 5) 社会資源の活用 6) 多職種との連携 状況設定事例のアセスメント
8	まとめと筆記試験	1．終講試験・学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 主体的な取り組み状況 （グループワークの参加状況） 課題達成度 提出物状況	老年看護学　医学書院 老年看護病態・疾患論　医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 廣川出版

実務経験　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

- 高齢者の健康障害に視点を持ち、自立に向けて援助を考えていきます。
- 事例の病態や症状は、成人看護学で学んだことを学習して臨みましょう。

授業科目 老年看護学実習Ⅰ	担当講師名 担当教員１人/1G	単位数　２単位 時間数　９０時間	対象学年 ２年次後期

学習目標（ねらい）

１．地域・施設において、対象の特徴を理解し日常生活機能の程度に応じた援助を学ぶ。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
	臨地実習 ＜地域＞ 1. 社会福祉施設 2. 鹿児島市谷山北公民館 3. 実践外活動 ・ロールプレイ ・事例演習	１．生きてきた時代、社会参加状況から生活を理解する １）生活背景を知る ２）生活習慣を知る ３）社会状況（家族関係・対人関係・経済力） ２．外観、活動の観察を通して健康観を知る １）老化の過程 （外観上の変化・運動機能・感覚機能など） ２）生活状態の把握 ３．対象の特性を踏まえてコミュニケーションを図る １）対象の余暇や楽しみの理解、生きがいを知る ４．老人福祉施設及び介護保険法に基づく施設の特徴を知る ５．施設で生活している事例の状況に応じた援助の実践と振り返り
	＜施設＞ 1.介護老人保健施設 2.介護老人福祉施設	１．対象の身体的・精神的・社会的特徴の把握 １）対象の特徴 ２）一般状態の観察を行い身体的状況の把握 ３）入浴介助・レクリエーションなどへの援助を通しての対象理解 ２．対象の自立をめざした日常生活の援助の実施 １）施設で計画してあるケアプランをもとに日常生活の援助を実施 ２）対象の楽しみ・生きがい ３．保健・医療・福祉チームメンバーの職種の役割および連携の実際 １）社会資源についての学習 ２）多職種との連携

評価方法	テキスト・参考書等
実習評価表に基づいて評価する	老年看護実習要項 関連する文献

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う

備　考

授業科目 老年看護学実習Ⅱ	担当講 担当教員１人/１Ｇ	単位数　２単位 時間数　９０時間	対象学年 ２年次後期

学習目標（ねらい）

１．　老年期にある対象の老化の特徴と健康レベルに応じた援助に必要な基礎知識・技術・態度を学ぶ。また、保健・医療・福祉の調整を理解し看護職の役割を学ぶ。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
	臨地実習 １．病院	１．老年期にある対象の理解 １）老年期の特徴を情報や一般的特徴を基に発達段階、生活過程の視点で捉える ２）加齢に伴う身体の変化の理解と観察 ３）病態像・対象の疾患をめぐる特徴 ４）入院前の生活習慣の把握 ５）生活史から個別性を見出す ２．対象の健康上の問題を把握し、ＱＯＬを高めるための援助 １）日常生活動作の自立のためのアセスメント ２）対象の状態に応じて必要な看護技術を実施 ３．生活機能の変化と健康障害に対する家族支援の態度 １）家族が抱える問題を把握し、その問題に応じた看護の必要性を考える ４．社会資源の実際、保健・医療・福祉の役割・連携の重要性 １）必要な社会資源の選択方法 ２）対象の状態、家庭環境の変化 ５．対象の生活信条・価値観を尊重した行動 １）コミュニケーション技法 ２）生きがいへの支援

評価方法	テキスト・参考書等
実習評価表に基づいて評価する	老年看護学実習要項 関連する文献

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う

備　考

小 児 看 護 学

授業科目 小児看護学概論	担当講師名 廣森五十鈴（１６Ｈ） 中山　孝子（１４Ｈ）	単位数　　１単位 時間数　３０時間	対象学年 １　年次

学習目標（ねらい）

１．小児看護の変遷を知り小児看護の概念を理解する。
２．小児看護の対象を理解し、小児看護の役割を学ぶ。
３．小児を取り巻く社会情勢や疾病の構造の変化と小児看護の課題について学ぶ。
４．小児保健・医療・福祉の動向と小児をめぐる法律や保健対策を理解する。
５．小児の成長発達の関わる知識を学ぶ。

回　　数	単　元	学 習 内 容・方 法
1	1．小児看護の概念	1）小児看護の対象 2）小児看護の目標と役割
2～3	2．小児看護の変遷	1）小児の特徴 2）児童観、諸外国と我が国の児童数 3）小児看護における倫理
4～8	3．小児保健の統計と法律や保健対策	1）小児をめぐる諸統計 2）小児をめぐる法律と政策 3）乳幼児の健康診査と健康に関する指導 4）予防接種 5）学校保健
9～10	4．小児看護の課題	1）疾病構造の変化と小児看護 2）社会の変化と小児看護
11～14	5．小児の成長・発達	1）成長・発達とは 2）成長の評価 3）発達の評価 4）ライフサイクルからみた発達課題 5）小児看護で用いられる理論
15	6．振り返り及び終講試験	1）学習のまとめ 2）終講試験

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題レポート 課題提出状況 課題達成度	小児看護学概論 小児臨床看護学総論　医学書院 小児臨床看護各論　医学書院 国民衛生の動向

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う

備　　考

授業科目	担当講師名	単位数　１ 単位	対象学年
小児看護学方法論Ⅰ	中山　孝子	時間数　３０時間	２　年次

学習目標（ねらい）

1．成長発達の概念をふまえ、小児を形態的・機能的・精神機能的視点より理解する。
2．小児をめぐる栄養の特徴と重要性を理解する。
3．小児各期の特徴を理解し、健康な小児の日常生活に必要な援助を学ぶ。
4．現代社会における小児の諸問題を学ぶ。
5．小児に必要な看護技術や身体的アセスメントについて学ぶ。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1 ～3	1．小児各期の成長・発達	1)　成長・発達論 2)　形態的成長 3)　機能的発達 4)　精神・運動機能の発達
4～5	2．小児の栄養	1) 小児の栄養の特徴と重要性 2) 乳児の栄養 3) 離乳期の栄養 4) 幼児・学童期の栄養 5) 思春期の栄養
6～10	3．健康な小児の日常生活	1)　新生児期の養護と看護・育児支援 2)　乳幼児期の養護と生活指導 3)　愛着形成・情緒・社会的機能 4)　遊びの意義と支援 5)　学童期の生活・学習及び養育と看護 6)　思春期・青年期の特徴と看護 7)　各期のコミュニケーション機能
11～12	4．現代社会における小児の諸問題	1) 現代社会における小児保健の重要性 2) 母親の就業と育児 3) 心の健康と育児環境（虐待・不登校・いじめ）
13 ～14	5．小児に特有な看護技術 演習	1)　アセスメントに必要な技術（理論・ＤＶＤ） 2)　身体的アセスメント
15	6．終講試験及び振り返り	1) 終講試験 2) 学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題レポート	小児看護学概論 小児臨床看護総論　医学書院 小児臨床看護学各論　医学書院

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　2 単位	対象学年
小児看護学方法論Ⅱ	廣森　五十鈴	時間数　45時間	2　年次

学習目標（ねらい）

1．健康障害が小児に及ぼす影響を知り、小児と家族を含めた看護について理解する。
2．疾病の経過に伴う小児の身体的・心理的・社会的特徴と看護について理解する。
3．成長発達過程を考慮した基礎的看護技術を習得できる。
4．小児の特徴をふまえた事例による看護の展開ができる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～2	1．健康障害が小児と家族に及ぼす影響	1）健康を障害された小児の理解 (1)健康障害によりおこる身体・心理・社会的影響 (2)子どもの健康障害による家族への影響
	2．外来における小児の看護	1）外来における小児と家族の看護 (1)外来における小児 （プレパレーションの概要・演習） (2)外来における小児と母親の看護
	3．入院における小児の看護	1）入院における小児と家族の看護 (1)入院を必要とする小児 (2)入院時の看護
3～10	4．小児におこりやすい症状と看護	1）不機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・発熱・嘔吐 下痢・脱水・痙攣・発疹
	5．小児に特有な看護技術　演習	1）小児のフィジカルアセスメント演習
	6．小児の主な検査・処置	1）検査・処置を必要とする小児と家族の看護
11～17	7．疾病の経過に伴う小児と看護	1）急性期にある小児と家族の看護 2）慢性期にある小児と家族の看護 3）周手術期にある小児と家族の看護 4）終末期にある小児と家族の看護
	8．健康障害を持つ小児の生活と看護	1）生活制限のある小児と家族の看護 2）在宅療養を行う小児と家族の特徴と看護
	9．障害のある小児と家族の看護	1）障害のとらえ方 2）障害のある小児と家族の特徴 3）障害のある小児と家族の社会的支援
18～22	10．子どもの虐待と看護	1）リスク要因と発生予防、早期発見、求められるケア
	11．事例による看護展開　演習	1）状況設定事例のアセスメント
23	12．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題提出状況 課題達成度 課題レポート	小児看護学概論 小児臨床看護総論　医学書院 小児臨床看護学各論　医学書院

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　2 単位	対象学年
小児看護学実習	担当教員1人/1G	時間数　９０時間	3　年次

学習目標（ねらい）

1　小児各期の成長・発達を理解し、対象を総合的にとらえる。
2　小児とその家族とのよい人間関係を築いていくことの重要性を学ぶ。
3　小児及び家族の健康問題を明確にし、解決に向けての援助ができる。
4　小児とその家族との関わりの中で、保健・医療・福祉チームの役割と連携を理解する。
5　健全な子ども観を養う。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
	保育園実習	1　健康な乳幼児の特徴を理解し成長・発達に応じた援助を学ぶ。 1）小児の成長・発達の特徴を観察しながら、施設の教育計画に基づき関わる。 2）小児のコミュニケーションの特徴を理解し、遊びや活動を共に行う。 3）基本的生活習慣の確立（しつけ）に向けての援助を行う。 4）安全な保育環境を知る。
	小児科病棟 医療福祉センター	2　健康障害を持つ小児とその家族を理解し成長・発達、健康レベルに応じた看護を実践する。 1）小児の成長・発達段階を理解し、病態をアセスメントする。 2）必要な援助を実施・評価する。 3）疾病・入院が小児や家族に及ぼす影響について理解する。 4）家族システムで小児を捉え、良い関係性を築く。 5）病棟における小児の安全を守るための援助を学ぶ。 6）保健・医療・福祉チームの役割と連携を理解し、小児保健対策を知る。 7）障害児を取り巻く環境を知り、療育の在り方を、学ぶ。 8）あらゆる小児の理解を深め健全な子ども観を養う。

評価方法	テキスト・参考書等
実習評価表、実習レポートに基づいて総合的に評価する	小児看護学実習要項 関連する文献

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う

備　考

母 性 看 護 学

授業科目 母性看護学概論	担当講師名 櫨木　恵	単位数　1　単位 時間数　３０時間	対象学年 1　年次

学習目標（ねらい）

1．母性看護の基盤となる概念を理解し、母性看護の役割について理解できる。
2．母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解できる。
3．母性看護の対象の生物学的、心理・社会的側面について理解できる。
4．女性のライフステージ各期における看護について理解できる。
5．リプロダクティブヘルスケアについて理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～2	1.母性看護の基盤となる概念	1) 母性看護の中心概念 2) 母性看護実践を支える概念
3～4	2.リプロダクティブヘルスに関する概念	1) リプロダクティブヘルス/ライツ 2) セクシュアリティとジェンダー 3) ヒトの発生・性分化のメカニズム 4) 性分化疾患・性意識の発達・性同一性障害
5～7	3．リプロクティブヘルスに関する動向・法や施策と支援	1) 出生・死亡・家族形成に関する統計 2) 子どもと女性の保護に関する法律 3) 女性の就労に関する法律 4) 子育て支援に関する法律 5) 暴力・虐待の防止に関する法律と支援 6) 周産期医療システム
8～9	4.リプロダクティブヘルスに関する倫理・倫理的課題の実際	1) 母性看護実践における倫理的・法的・社会的課題 2) 人工妊娠中絶に関する現況、倫理的・法的・社会的課題 3) 出生前診断・生殖補助医療に関する現況、倫理的・法的・社会的課題
10～12	5.女性のライフステージ各期における看護	1) 女性生殖器・男性生殖器 2) 第二次性徴 3) 性周期・妊娠のメカニズム 4) 性行動・性反応 5) 月経異常・性感染症・女性生殖器の腫瘍
13～14		1) 更年期女性の特徴・健康問題と看護 2) 老年期女性の特徴・健康問題と看護
15	6．終講試験及び振り返り	1) 終講試験 2) 学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	母性看護学概論　　医学書院 国民衛生の動向

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う

備　考

授業科目 母性看護学方法論Ⅰ	担当講師名 大村　祥恵（16H） 福元　奈菜（14H）	単位数　1　単位 時間数　３０時間	対象学年 2　年次

学習目標（ねらい）

1．「妊娠を継続する」対象の看護を理解できる。
2．「出産する」対象の看護を理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～8	1．「妊娠を継続する」対象の看護	1）妊娠期における看護師の役割 2）妊婦の生理 3）妊婦と胎児のアセスメント 4）出産を控えた妊婦と家族の心理・社会的変化と看護 5）妊娠期健康維持のためのセルフマネジメント 6）出産と子育て準備のための看護
9～14	2．「出産する」対象の看護	1）分娩期における看護師の役割 2）分娩の生理 3）産婦と胎児のアセスメント 4）産婦のニーズと看護 5）産婦と家族の心理
15	3．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	母性看護学概論　医学書院 母性看護学各論　医学書院

実務経験　助産師として培った豊富な経験をもとに講義を行う

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1 単位 時間数　３０時間	対象学年
母性看護学方法論Ⅱ	福元　奈菜		2　年次

学習目標（ねらい）

1．「非妊時（妊娠前）の身体に戻る」対象の看護を理解できる。
2．「子どもが育つ」の対象の看護が理解できる。
3．「子どもを産む」「子どもが育つ」対象の看護技術を習得できる。

回　数	単　元	学 習 内 容 ・方 法
1～3 4～7	1．「非妊時（妊娠前）の身体に戻る」対象の看護を理解できる。	1）産褥期の定義 2）産褥期における看護師の役割 3）産褥の生理 4）産褥のアセスメントと看護 5）産褥の日常生活とセルフケアを支える看護 6）母親になることへの看護 7）母乳育児と看護
8～9	2．「子どもが育つ」の対象の看護	1）新生児期における看護師の役割 2）新生児の生理 3）新生児のアセスメント 4）新生児のケア
10～14	3．「妊娠を継続する」「非妊時（妊娠前）の身体に戻る」「子どもが育つ」対象の看護技術 演習	演習 1）診察時の諸計測 2）褥婦の看護技術 3）新生児のバイタルサイン 4）新生児の看護技術（沐浴・抱き方）
15	4．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	母性看護学概論　医学書院 母性看護学各論　医学書院

実務経験　助産師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
母性看護学方法論Ⅲ	川越　真衣	時間数　３０時間	2　年次

学習目標（ねらい）

1．「子どもを産む」ことに障害のある対象の看護について理解できる。
2．「子どもが育つ」ことに障害のある対象の看護について理解できる。
3．事例を通して正常経過にある対象の看護の展開ができる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～7	1．「子どもを産む」ことに障害のある対象の看護	1）妊娠期の異常と看護のポイント 2）分娩期の異常と看護のポイント 3）産褥期の異常と看護のポイント 4）特殊なニーズをもつ妊産婦と家族への支援
8～9	2．「子どもが育つ」ことに障害のある対象の看護	1）新生児の異常と看護のポイント 2）周産期医療体制
10～14	3．正常経過にある対象の看護の展開演習	1）ウエルネス志向とは 2）看護の展開の実際 演習：正常経過をたどる褥婦・新生児の事例を用いて展開する
15	4．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	母性看護学概論　医学書院 母性看護学各論　医学書院

実務経験　助産師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目 母性看護学実習	担当講師名 担当教員１人/1G	単位数　２単位 時間数　９０時間	対象学年 ３　年次

学習目標（ねらい）

１．妊娠期の特徴を理解し健康診査、健康に関する指導の必要性と方法が理解できる。
２．分娩・産褥期及び新生児期の特徴を理解し対象に応じた援助ができる。
３．母性実習を通して、生命の尊厳を認識でき、自己の母性（父性）観を深めることができる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
	臨地実習 １．病院（外来）	１．妊娠期の特徴の理解、健康診査、健康に関する指導の必要性と方法の理解 1)　妊娠経過に伴う生理的変化 2)　分娩予定日の算出 3)　妊娠の早期診断法の種類と方法 4)　妊婦のマイナートラブル 5)　健康診査の目的 6)　診察に伴う介助 7)　妊娠中に行われる検査・計測 8)　母親学級への参加 9)　保健指導の見学 10)　妊娠の届出 11)　妊婦一般健康診査受診表の活用場面の見学 12)　母子健康手帳の活用
	２．病院（病棟）	２．分娩・産褥期及び新生児期の特徴の理解と対象に応じた援助 1)　分娩経過の観察 2)　分娩経過に応じた日常生活の援助 3)　産痛緩和法 4)　産婦の精神的慰安 5)　出産場面への立会い 6)　褥婦の観察 7)　看護過程の展開 8)　出生直後の新生児の観察 9)　生後日数に応じた新生児の観察 10)　新生児の援助
	３．実践外活動	３．地域における母子ケアについてフィルドワーク行う。 ４．母性実習を通して、生命の尊厳を認識でき、自己の母性（父性）観を深める

評価方法	テキスト・参考書等
実習評価表に基づいて評価する	母性看護学実習要項 関連する文献 パーフェクト臨床実習ガイド　母性看護

実務経験　　看護師・助産師として培った豊富な経験をもとに指導を行う

備　考

精 神 看 護 学

授業科目 精神看護学概論	担当講師名 櫨木　恵	単位数　1 単位 時間数　15 時間	対象学年 1　年次

学習目標（ねらい）
1．精神看護の目的と意義を理解する。
2．人間の心のはたらきとパーソナリティについて理解する。
3．精神保健医療福祉の歴史と法制度を理解する。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～2	1．精神看護の目的と意義	1．精神看護学で学ぶこと 1)「心のケア」と現代社会 2)精神看護とその課題 3)精神障害の体験と精神障害 4)精神看護学でなにを学ぶのか
	2．精神保健の考え方	1．精神の健康とは 2．精神障害のとらえ方 3．ストレスと健康の危機 4．心的外傷が精神の健康に及ぼす影響 5．回復(リカバリー)を支える力
3～5	3．人間の心のはたらきとパーソナリティ	1．人間の心の諸活動 2．心のしくみと人格の発達
6～7	4．社会のなかの精神障害	1．精神障害と治療の歴史 2．日本における精神医学・精神医療の流れ 3．精神障害と文化 4．精神障害と社会学 5．精神障害と法制度
8	5．終講試験及び振り返り	1．終講試験 2．学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成状況	精神看護の基礎　医学書院

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う

備　考

授業科目 精神看護学方法論Ⅰ	担当講師名 櫨木　恵（１０Ｈ） 元脇　充（２０Ｈ）	単位数　１　単位 時間数　３０　時間	対象学年 ２　年次

学習目標（ねらい）
1．関係のなかの人間を理解できる。
2．本来の意味でのケアを考え理解できる。
3．地域における精神保健と精神看護を理解できる。
4．リエゾン精神看護について理解できる。
5．看護師のメンタルヘルスについて理解できる。

回　数	単　元	学習内容・方法
１～２	１．関係のなかの人間	１．全体としての家族 ２．人間と集団
３～５	２．ケアの人間関係 演習	１．ケアの前提 ２．ケアの原則 ３．ケアの方法 ４．関係をアセスメントする １）プロセスレコードを用いた演習 ５．患者－看護師関係における感情体験 ６．対処のむずかしい場面 ７．医療の場のダイナミクス
６～１０	３．地域における精神保健と精神看護	１．精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える ２．地域で生活するための原則 ３．生活を支えるための社会資源・サービス ４．地域での看護の実際 ５．学校における精神保健と精神看護 ６．職場における精神保健と精神看護
１１～１２	４．リエゾン精神看護	１．身体疾患をもつ患者の精神保健 ２．リエゾン精神看護とその活動 ３．リエゾンナースの活動の実際 ４．看護師の精神的健康のへの支援
１３～１４	５．看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	１．看護師の不安と防衛 ２．感情労働としての看護 ３．看護師の感情ワーク ４．看護における共感の光と影 ５．感情労働の代償と社会 ６．レジリエンスを高める
１５	７．終講試験及び振り返り	１．終講試験 ２．学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成状況	精神看護の基礎　医学書院 精神看護の展開　医学書院

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　1　単位	対象学年
精神看護学方法論Ⅱ	久松　美佐子	時間数　３０　時間	２　年次

学習目標（ねらい）
1．おもな精神症状を理解する。
2．精神障害の分類と検査を理解する。
3．主な疾患の特徴と治療を理解できる。
4．精神に障害をもつ人の看護の基本を理解できる。
5．患者ー看護師関係成立発展について理解できる。
6．精神の健康増進・回復の援助方法を理解できる。
7．再構成が理解できる。
8．精神科看護の場とそれぞれの看護を理解できる。
9．精神に障害をもつ人の生活の特徴と家族を含めた看護を理解する。

回数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～2	1．おもな精神症状	1．精神を病むことと生きること 2．精神症状論と状態像 1)症状とはなにか 2)さまざまな精神症状 思考，感情，意欲，知覚，意識，記憶の障害，局在症状
3～4	2．精神障害の診断と分類	1．診断と疾病分類 2．主な臨床検査及び心理検査
5～8	3．主な疾患の特徴と治療	1．主な精神疾患の特徴 1)統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害 2)気分（感情)障害 3)神経性障害,ストレス関連障害および身体表現性障害 4)解離性障害 5)生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (性同一性障害) 6)パーソナリティ障害　7) 器質性精神障害 8)精神作用物質使用による精神・行動の障害　9)てんかん 10)神経発達障害群　11)習慣および衝動の障害 12)小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 （自殺、ひきこもり、不登校、自傷行為等) 2．主な治療 1)精神科における治療　2）薬物療法・電気けいれん療法 3)精神療法　4）家族療法　5）環境療法・社会療法
9～14	4．精神に障がいをもつ人の看護の基本 5．患者―看護師関係成立発展 6．精神の健康増進・回復の援助 7．援助過程の再構成 8．精神科看護の場と実践 9．精神に障がいをもつ人の生活の特徴と家族を含めた看護	1．回復の意味　リカバリ　回復のビジョン 2．入院治療の目的と意味 3．治療的環境をつくる 4．治療共同体，双方向のコミュニケーション 5．治療的環境と看護師 6．安全を守る 1)リスクマネジメントの考え方，方法 2）緊急事態に対処する 7．身体をケアする 1)身体にあらわれる心の痛み 2)精神療法としての身体のケアと実際 3)睡眠の援助　4)グループアプローチ 8．サバイバーとしての患者とそのケア 1)受け入れがたい行動を示す患者たち 2)心的外傷への着目 3)回復への道程
15	まとめ・終講試験	1．終講試験 2．学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験	精神看護学の基礎　医学書院 精神看護学の展開　医学書院

実務経験　看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う

備　考

授業科目 精神看護学方法論Ⅲ	担当講師名 専任教員	単位数　1　単位 時間数　15　時間	対象学年 3　年次

学習目標（ねらい）

1．精神障害のある対象の心の健康上の課題を総合的にアセスメントし、対象の特性に応じた看護の展開について理解できる。

回数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～2	1．精神看護の特性と援助の考え方	1．精神看護における援助の考え方、対象への働きかけの方向性について理解する。 2．ヘンダーソンの看護論に基づき、基本的欲求の充足力のアセスメントと自立の考え方を理解する。
3～5	2．身体表現性障害をもつ人の特徴に合わせた看護展開 演習	1．身体疾患の根拠がないにもかかわらず、繰り返し身体症状を訴える身体表現性障害の事例展開を行う。 1）情報の整理・アセスメント ・どのような身体症状の訴えがあるか ・訴えの特徴 ・訴えがあることによるADL、IADLへの影響 ・過去、現在、未来の対人関係への影響 ・訴えがあることによる社会生活への影響 ・どのような生きづらさがあるか 2）看護計画の立案 ・身体表現性障害では、痛みなどが身体愁訴として現れ、その自覚症状により日常生活が妨げられているため、どのような看護援助が必要かを考える。
6～7	3．検討・まとめ・発表	1．個人でワークした内容を検討し、他者の発表を聞くことで、身体表現性障害者への看護の理解を深める。 1）グループ内で検討する。 2）グループ内でまとめた看護の展開を発表する。 3）講義と学生間の意見交換を基に個々の修正を行う。
8	4．終講試験	1．終講試験 知識確認として一般・状況設定問題等の筆記試験を行う。

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成状況	精神看護の基礎　医学書院 精神看護の展開　医学書院 関連する文献

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

精神看護学概論、精神看護学方法論他、援助関係を構築するための理論や、既習の学習を引き出しながら学びましょう。

授業科目	担当講師名	単位数　２単位	対象学年
精神看護学実習	担当教員1人/1G	時間数　９０時間	３　年次

学習目標（ねらい）

１．精神の健康の保持・増進および精神に障害をもつ人の看護を実践するための基礎的能力を養う。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
	臨地実習 １．精神科病棟実習	１．病棟実習では１人の患者を受け持ち、情報のアセスメント、問題点の抽出、ケア計画の立案といった一連の過程を学習する。 ２．受け持ち患者の発達段階の特徴や病態生理につながる事前学習を行う。 ３．記録用紙を用いて受け持ち患者の情報を整理し、対象理解を深める。 ４．受け持ち患者の問題状況をアセスメントし、問題解決について患者と一緒に考えることができる。
	２．精神科デイケア実習	５．日々の看護実践を振り返り、日々の記録またはプロセスレコード用紙にまとめる。 ６．デイケア実習では、日常の生活をともに過ごし、関わりを日々の記録又はプロセスレコード用紙にまとめて振り返りをする。 ７．実習期間中必要に応じてカンファレンスを行い学びを深める。

評価方法	テキスト・参考書等
実習評価表　出席状況　実習態度　実習レポート 自己学習などを踏まえ総合的に評価する	精神看護学実習要項 関連する文献

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う

備考

統　合　分　野

在 宅 看 護 論

授業科目 在宅看護論概論	担当講師名 西　裕美	単位数　１ 単位 時間数 ３０ 時間	対象学年 ２年次前期

学習目標（ねらい）

１．在宅看護の目的と特徴が理解できる
２．在宅看護の対象が理解できる
３．訪問看護の現状を知り、活動内容が理解できる
４．チームケアの重要性と在宅ケアにおける看護職の役割が理解できる

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
１～２	１．在宅看護の目的と特徴	１．在宅看護を学ぶにあたって ２．在宅看護のめざすもの ３．在宅看護における看護師の役割と機能
３～５	２．在宅看護の対象者	１．在宅看護の対象となる個人の特徴 １）年齢・疾患・障がい・環境からみた対象の特徴 ２．ケアの単位としての家族 １）家族を理解するための諸理論 ２）家族アセスメントと支援
６～８	３．在宅療養の支援	１．在宅看護の提供方法 ２．療養の場の移行 １）患者、家族の意思決定支援と調整 ２）退院支援・退院調整
９～１２	４．在宅看護に関わる法令・制度	１．訪問看護のしくみ １）訪問看護制度の創設と発展経緯 ２）在宅看護に関わる法令・制度 ３）訪問看護制度 ４）訪問看護サービスの提供 ２．ケアマネジメントと社会資源の活用 ３．地域における多職種連携
１３～14	４．在宅看護の展開	１．療養上のリスクマネジメント １）在宅看護におけるリスク ２）生活上の事故防止 ３）災害に対する準備と対応 ２．在宅看護における権利保障
15	５．終講試験及び振り返り	１．終講試験 ２．学習のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成度	在宅看護論　　医学書院 プリント資料

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う

備　考

公衆衛生学・社会福祉学・看護関係法規・保健医療論・専門分野Ⅱの学びと関連している。

授業科目	担当講師名	単位数　１単位	対象学年
在宅看護論方法論Ⅰ	松尾　詠美子	時間数　３０時間	２ 年次

学習目標（ねらい）
1．療養者と家族のもつ看護上の課題を見出し、訪問看護師として支援すべき事柄、看護介入の方法評価のプロセスが理解できる
2．在宅ケアシステムにおけるケアマネジメントの必要性と方法を理解できる
3．在宅看護における人間関係確立の基本を理解できる

回　数	単　元	学 習 内 容・方 法
１～８	1. 在宅看護の展開方法	1．　在宅看護過程の特性 1）構成要素 2）看護の対象者 2．　在宅看護過程の展開方法 1）情報収集 2）アセスメントの視点 3）問題の明確化 4）目標の設定・援助計画 5）評価・再アセスメント 3．事例をとおして在宅看護の展開方法について考える
９～１１	2．ケアマネジメントの展開	1．療養者の状況を踏まえてサービスの調整計画立案 2．ケアカンファレンス
１２～１４	3．在宅看護における信頼関係確立の基本 演習	1．信頼関係形成・意志決定への支援 2．訪問時の面接技術 1）初回訪問時の面接技術 2）訪問時のマナー（服装、言葉遣い、事前の確認） 演習 1．初回訪問場面で療養者・家族・看護師役を設定ロールプレイしグループワークで学びを深める
１５	4．終講試験及び振り返り	1）終講試験 2）学習内容のまとめ

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成度	在宅看護論　　医学書院 プリント資料

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目 在宅看護論方法論Ⅱ	担当講師名 川﨑　幸栄子(18H) 高祖　由実　(8H) 泊　奈津美　(4H)	単位数　1　単位 時間数　３０　時間	対象学年 ２　年次

学習目標（ねらい）

1．在宅で療養する対象者および家族に必要な生活援助技術・指導技術を習得できる。
2．寝たきり者の看護が理解できる。
3．認知症高齢者の看護が理解できる。
4．終末期にある対象の在宅看護が理解できる。

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～3	1．日常生活の援助技術	講義・演習 1．片麻痺のある対象への援助技術 1）移動方法、入浴、洗髪、排泄 2）家庭の状況にあわせた看護技術の工夫
4～6	2．家庭でのリハビリテーションを継続させる為の援助技術	講義・演習 1）アセスメント 2）リハビリテーションの実際 3）趣味や生活習慣を取入れた工夫
7～8	3．医療処置をともなう援助技術演習	講義・演習 1．医療処置と在宅ケア 1）　褥瘡・創傷の処置 2）　自己導尿・留置カテーテル挿入中の看護 3）　在宅酸素・呼吸器管理(人工呼吸器装着) 4）　吸引の援助技術 5）　在宅中心静脈栄・経管栄養(演習) 6）　薬剤管理 7）　ストーマ
9～10	4．寝たきり者の在宅看護	講義 1．寝たきり者の看護 1）寝たきり者のアセスメント 2）合併症の予防 3）社会資源の活用
11～12	5．認知症高齢者の在宅看護 6．小児の療養者に対する在宅看護	2．認知症高齢者の看護 1）認知症高齢者のアセスメント 2）合併症の予防 3）社会資源の活用 3．小児の療養者に対する在宅看護
13～14	7．終末期にある対象の看護	4．終末期にある対象の看護 1）在宅における終末期看護の視点 2）終末期看護の流れと緩和ケア 3）　終末期にある対象の事例展開
15	7．終講試験及び振り返り	まとめ・筆記試験

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題達成度	在宅看護論　　医学書院

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目 在宅看護論方法論Ⅲ	担当講師名 西　　裕美	単位数　1　単位 時間数　1 5　時間	対象学年 3　年次前期

学習目標（ねらい）

1．療養者と家族や、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の展開ができる

回　　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～7	療養者と家族の健康様態に応じた在宅看護の展開 演習	1．在宅看護介入時期と寝たきりや認知症・重度障害を持つ小児・終末期など多様な状態の療養者と家族を対象に在宅看護の特徴を理解したうえで看護展開を主体的に思考する。 1）身体・心理的側面と社会的側面を生活環境と家族・介護状況の側面からの情報収集することの理解 2）療養者の心理的側面から推察し、療養上の望みを中心にした療養生活全体の目標設定。
8	在宅療養の経過に応じた看護の展開 演習	3）療養者の生活上の望みに影響すると予測される情報群に関連情報を集めて解釈・判断統合するアセスメント。 4）家族や多職種と協働を意識して、健康維持と生活の継続ができるような援助計画の立案。 5）訪問看護制度を理解した中での、看護援助内容の精選。 2．看護過程の思考プロセスを、療養生活関連図に表現し他者に伝える。 3．評価表にそって自己評価をおこない事例の振り返りをおこなう。 知識確認として一般・状況設定問題等の筆記試験をおこなう。

評価方法	テキスト・参考書等
筆記試験 課題の達成度 グループワークの参加状況	在宅看護論　　医学書院 関連する文献

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考
既習の公衆衛生学・関係法規・保健医療論・小児・成人・老年看護学の文献を自ら活用する。
事前に展開する事例に応じた病態理解と看護のポイント、利用可能な社会資源について学習しておく。

授業科目 在宅看護論実習	担当講師名 担当教員1人/1G	単位数　2 単位 時間数　90 時間	対象学年 3 年次

学習目標（ねらい）

1．地域で生活する人の健康管理の実際を知り、保健所の役割や地域の中で果たすべき看護の役割が理解できる
2．在宅療養生活を維持していくための支援体制が理解できる
3．在宅看護を必要としている対象を含めた家族を1つの単位として捉え、生活現状をふまえた看護援助を考えることができる

回　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
	臨地実習 1．市町村保健センター 2．地域包括支援センター・居宅介護支援事業所 3．訪問看護ステーション	1．地域で生活する人の健康管理の理解 1）保健センターでのオリエンテーションへの参加 2）市町村保健センターで実施されている事業への参加 3）事業へ参加されている人とのコミュニケーションをとおして、健康への意識の確認 2．地域で療養生活をされている人の生活支援の理解 1）居宅介護支援事業所・地域包括支援センターの事業内容の把握 2）ケアマネジメントの実際 3）地域住民や関係職種との連携 3．在宅療養者の家族支援・生活援助の実際 1）訪問看護ステーションの活動の実際 （1）訪問計画にあげられた対象の訪問に同行し援助場面をとおして生活環境・健康状態介護状態・社会資源の活用状況把握 （2）1事例について療養生活の全体像を把握し援助の方向性を考察 2）在宅療養生活維持のための支援機関の理解 （1）訪問看護ステーションの概要 （2）他職種、施設との連絡・調整・相談の実際 （3）緊急時の連絡体制の実際

評価方法	テキスト・参考文献
実習評価表、実習レポートに基づいて総合的に評価する	在宅看護論実習要項 関連する文献

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う

備　考

看護の統合と実践

授業科目 看護の統合と実践Ⅰ	担当講師名 全教員	単位数　１ 単位 時間数　３０ 時間	対象学年 ２ 年次

学習目標（ねらい）
1．対象の形態機能の変化と日常生活行動とを関連させ対象の特性を統合し看護に活用できる。

2．対象の特性を統合し、生活支援技術・診断治療に伴う技術を看護に活用できる。

回　数 (1回90分)	単　元	学 習 内 容　・方 法
１～８	1．対象に適した日常生活援助の実践 （１５時間） 演習	演習（シミュレーション） 1．看護の対象としての人間の理解 1）人間が生物として生きていることの理解 2）人間の生きていることを支える日常生活行動と形態機能との関連 3）対象に生じている形態機能の変化と日常生活行動との関連 2．対象への看護場面のイメージ化 3．対象に応じた臨床判断のもと、安全な援助展開の実施 4．一連の過程の自己評価、自己の課題の明確化 5．課題を達成するための主体的学習
９～１５	2．生活支援技術・診断治療に伴う技術の対象への実践 （１５時間） 〈事例の活用〉 演習	演習 1．健康障害の特性に応じた事例の抽出 2．事例を理解し、必要な生活支援技術・診断治療に伴う技術項目の抽出 3．模擬患者に安全な援助技術の実施 1）援助の目標・計画・根拠を明確にして実施・評価 2）技術練習の実施 4．演習の振り返り及び自己の課題の明確化 リフレクションシートの理解と活用 5．看護に活用できる知識・技術の確認及び対象に実践するための自己学習
評価方法		テキスト・参考書等
１－①　１－②の終了時に評価を行いその結果を統合する		１・２年次既習科目の資料・テキストなど プリント

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目	担当講師名	単位数　2 単位	対象学年
看護の統合と実践Ⅱ	大山　もと子（8H） 吉松　昌代　（2H） 小牧　和代　（１８H） 内野　裕子　（７H） 八代　利香　（１０H）	時間数　４５ 時間	３　年次

学習目標（ねらい）

1．災害看護の概念を学び人的災害、自然災害の予防策や発生直後からの看護支援を理解できる。
2．国際社会における保健医療福祉の実情を知り、看護師としての国際協力の必要性が理解できる。
3．他職種の協働のなかでの看護の役割、医療安全、看護をマネージメントする必要性について理解できる。
4．既習の知識・技術を基に、看護のマネージメント能力を深め、対象の状況と場に応じた看護を実践するための活用方法を理解できる。

回　数 (1回90分)	単　元	学 習 内 容　・方 法
1～6	1．災害看護　（12時間）	1．災害看護の概念と構造 2．災害と健康 3．災害サイクルにそった看護活動 4．心理的回復の過程 5．災害への備えとそのシステム 6．災害時の母子支援 7．災害を受けた子供と家族の看護 8．高齢者に特徴的な災害時の看護 9．災害時の地域における精神保健医療活動
7～11	2．国際看護　（10時間）	1．国際看護の概念・定義 2．諸外国における保健医療福祉の実情（グループワーク） 3．看護師の国際協力活動の現状（特別講演） 4．自己でできる国際協力活動についてのまとめ（個人ワーク）
12～16	3．医療安全・看護管理（10時間）	1．医療安全の基本的な考え方と対策　演習 危険予知トレーニング KYT　演習 実習事例の分析　　演習 2．看護管理の実際と対策 1）看護サービス提供の仕組みと実際 2）安全管理の実際 3）他職種の連携と協働における管理 4）看護ケアを統合していく力の育成
17～22	4．事例展開　（12時間） 演習	1．防災センター研修 2．トリアージ演習（DVD） 3．避難所にいる被災者を想定した生活環境の整備と対応（図上シミュレーション）
	5．終講試験	筆記試験

評価方法	テキスト・参考書等
各演習の参加状況 課題レポート 筆記試験	基礎看護学概論　　医学書院 看護の統合と実践（1）（2）（3）医学書院

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目 看護の統合と実践Ⅲ	担当講師名 全教員	単位数　１ 単位 時間数 ３０ 時間	対象学年 ３　年次

学習目標（ねらい）
1．看護現象を客観的、科学的、論理的に捉え、看護を広く、深く追求し続けることの重要性を理解できる。
2．場や状況に応じた判断力・統合力を結集し、看護を創造し実践する力を高めることができる

回　数 (1回90分)	単　元	学 習 内 容　・方 法
１～７	１．看護研究（ケーススタディ） 演習	１．看護現象の客観的、科学的理解と、論理的表現 １）自己の看護実践の振り返り ２）対象の反応について科学的追及 ３）看護実践の論述 ４）批判的思考での評価
８～１５	２．臨床看護の連携と実践 演習	１．臨床の場で起こりうる事例の理解 （卒業到達度Ⅱ，Ⅲ，Ⅳレベル項目の活用） １）事例に対する看護実践と多職種連携のイメージ化 ①正確で安全な知識、技術 ②優先順位の判断 ③予測性を踏まえた状況判断 ④時間の経済性と効率性 ⑤事例の対象を支援する多職種の理解 ２）看護の統合力の評価 ①知識確認試験 ２．臨床の場における対象者と多職種連携の目標に向けた連携 １）看護職の役割と責務 ２）対象者について多職種間のコミュニケーション ３）ケアカンファレンス ４）リフレクション ３．臨床場面に即した環境下での安全な看護実践 （卒業到達度Ⅰレベル項目の活用） １）提示された事例の対象のイメージ化 ２）知識及び技術の確認 ３）臨床看護の実践能力試験 ①時間内に実施 ②割り込み状況への対応 ③模擬患者・受験者・試験官の３者での振り返り ④評価

評価方法	テキスト・参考書等
看護研究（ケーススタディ） 知識確認試験 臨床看護の実践能力試験	既習科目、関連する文献の活用 系統別看護師国家試験問題他看護師国家試験出題基準に準ずる問題集

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う

備　考

授業科目 統合実習	担当講師名 担当教員1人/1G	単位数　2 単位 時間数　９０ 時間	対象学年 3　年次

学習目標（ねらい）
1．複数の対象の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性を理解できる。
2．対象を全人的に捉え、状況や場に応じて既習の知識・技術を引き出し、統合させ、看護を実践する能力を養う。

日　数	単　元	学 習 内 容　・方 法
	1. 複数の対象を受け持ち、ケア　の優先順位を判断しながら看護が実施できる	病院実習 4人編成　１０グループ 1グループに教員1名　夜間実習においては、1名の教員が巡回 1週目）複数受け持ち対象の情報収集、看護師のシャドウイング、看護援助の実践 2週目）師長、リーダー、メンバー、夜間実習をローテーションしながら体験 3週目）複数受け持ち対象の看護援助の実践
	2. 病棟管理の実際、他部門との調整などを通して看護管理の実際を学ぶ	1．複数受け持ち対象の看護の理解 1）対象に立案されている看護計画と援助の理解 2．看護チームのチームメンバー及びチームリーダーの役割 1）医師への報告、連絡調整 2）チーム及びスタッフへの連絡調整 3）病院内外への部門との連絡調整 3．病棟管理者の役割と業務 1）病床管理 2）安全管理 3）他部門との連絡調整 4）看護部組織の中での報告・連絡・調整の実際 4．夜間帯の対象の生活と看護活動 1）夜間の日常生活援助の理解 2）夜間時間の対象の反応 5．複数受け持ち対象への援助 1）複数の対象の援助の優先順位と時間配分を考えた日々の計画立案 2）一人の対象に必要な複数の援助の優先順位と時間配分の調整 3）対象の変化、状況の変化、作業の中断など流動的環境のなかでの援助の実践
	3. 統合実習で学んだことを通しチームの一員としての、自己の目標を明確にすることができる	最終反省会

評価方法	テキスト・参考書等
実習評価表に基づく評価	

実務経験　　看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う

備　考